

研究紀要

研究主題

「明日も行こう」と思える楽しい学校づくり
～不登校未然防止に向け「分かった!できた!一緒に頑張れた!」を
目指した指導を通して～



令和8年1月30日

大田区立おなづか小学校

目次

I 研究の概要

- 1 研究主題と主題設定の理由 p. 1
- 2 研究の方針（研究構想図） p. 2
- 3 研究の内容と方法 p. 3
- 4 研究経過 p. 6

II 研究実践

- 1 算数科 p. 7
- 2 体育科 p.31
- 3 特別活動 p.53

III 研究のまとめ

- 1 WEBQU より p.73
- 2 校内児童アンケートより p.73
- 3 全国学力・学習状況調査より p.74
- 4 インタビュー調査 p.75
- 5 不登校・別室登校児童割合 p.76
- 6 研究成果と課題 p.76

I 研究の概要

1 研究主題と主題設定の理由

(1) 研究主題

「明日も行こう」と思える楽しい学校づくり
～不登校未然防止に向け「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を目指した指導を通して～

(2) 研究主題設定の理由

文部科学省「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によれば、令和4年度の不登校児童数は、105,112人、全児童の1.7%と過去最高であり、過去10年の傾向として、不登校児童数、及びその割合は5倍以上増加している（平成24年度は不登校児童数21,243人、不登校児童の割合0.31%）。そのような状況を鑑み、文部科学省は、不登校により学びにアクセスできない子どもをゼロにすることを目指し、「COCOLOプラン」を策定している。

第4期大田区教育振興基本計画である「おおた教育ビジョン」においても、「いじめ対応、不登校への支援の徹底」が明記されている。不登校は誰にでも起こり得ることである一方、学業の遅れをはじめ進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することから、不登校予防への更なる支援の充実が必要となる。

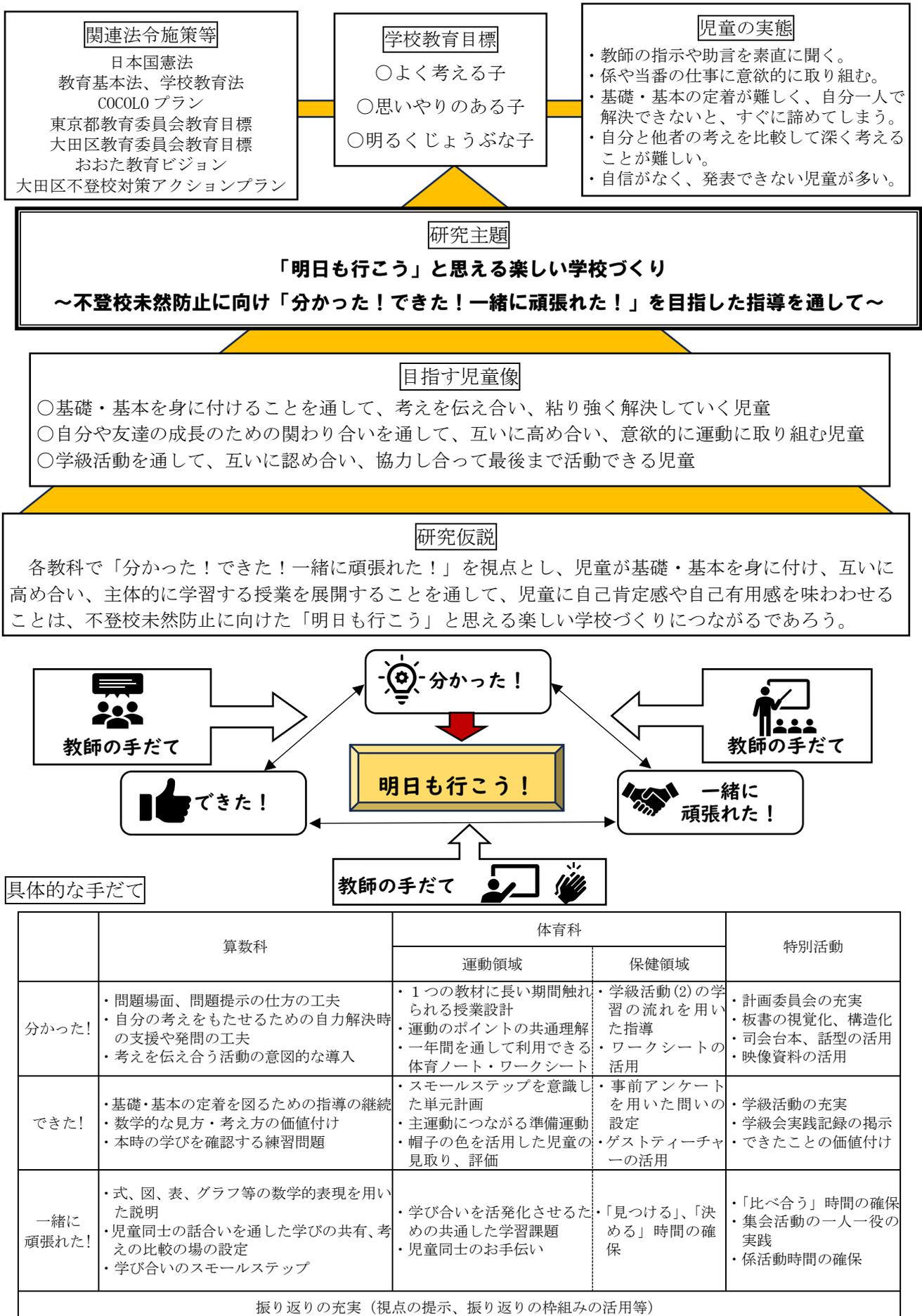
不登校予防には、教育的予防の「未然防止」と、治療的予防の「初期対応」の二種類がある。本校においては、初期対応として不登校対策委員会を設置し、組織として不登校への支援を行っている。しかし、高学年になるにつれて、不登校傾向の児童や教室に入ることができずに別室で過ごす児童が増える傾向にあり、未然防止への取組を充実させることが必要である。

本校の実態として、教師の指示や友達の助言を素直に聞いたり、係や当番の仕事に意欲的に取り組んだりできる児童が多い。一方で、学習については、基礎基本の定着が難しく、「自分一人では絶対に解決できない」とすぐに諦める児童や、自信がなく自分の意見を伝えられず、友達の考えに流されてしまう児童も多く、学習に対して非常に消極的である。そのため、本校の教職員は、このような児童が「諦めずに考えたら、計算の仕方が分かった」「友達に教えてもらったから、マットの技ができた」「学級会で自分の意見をしっかり伝えて、みんなで話し合えた」など、少しでもできることを増やし、学習に対して前向きに取り組むことを願っている。児童が学習に意味を見出すことによって、登校につながる意欲を高めることができると考える。

そこで、授業の工夫や改善を行っていくことで、学校を休みたいと思わせない学校づくりを進めることを目指し、研究主題を『「明日も行こう」と思える楽しい学校づくり』と設定した。そのために、各教科で「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を視点として、基礎基本を定着させ、協働的に学び合い、主体的に学習させる授業展開を継続的に行う。そのような指導を通して、児童が学習内容の理解を深めたり、合意形成を図ったりできるようにする。また、学習の振り返りを重視したり、キャリアパスポートを活用したりし、自己肯定感や自己有用感を高められるようにする。それに伴って、児童に対して学習への意識調査のアンケートを行ったり、WEBQUを活用したりすることで、児童理解を深めながら指導を進め、不登校の未然防止につなげていきたい。

また、令和2～5年度の校内研究では、算数科・体育科・特別活動の3教科について、授業づくりを工夫したり、教員の指導技術の向上を図ったりして、研究を進めてきた。そのため、「分かった！できた！一緒に頑張れた！」の視点は全教科で取り入れて指導しながらも、これまでの研究を土台として、授業研究は3教科に絞って行う。

2 研究の方針（研究構想図）



3 研究の内容と方法

(1) 授業研究

研究主題である『「明日も行こう」と思える楽しい学校づくり』に迫るための手だてとして、児童が「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を実感できるような授業を目指し、年6回の授業研究を進めてきた。

目指す児童像

①算数科

「基礎・基本を身に付けることを通して、考えを伝え合い、粘り強く解決していく児童」

②体育科

「自分や友達の成長のための関わり合いを通して、互いに高め合い、意欲的に運動に取り組む児童」

③特別活動

「学級活動を通して、互いに認め合い、協力し合って最後まで活動できる児童」

授業研究では、研究構想図の具体的な手だての「分かった！」「できた！」「一緒に頑張れた！」から、重点とする手だてを一つずつ選び、授業を行った。また、研究協議会は、少人数のワールドカフェ形式で行い、重点とする手だての有効性について議論した。



(2) 日常的な取組

児童が「明日も行こう」と思えるようになるためには、算数科、体育科、特別活動の3教科等の授業だけでなく、全教員が学習指導力を高めたり、様々な場面で児童が自己肯定感を感じたりするような取組が必要になると考える。そこで、以下のような取組を行った。

①授業づくりの視点、振り返りの視点

授業研究は、算数科、体育科、特別活動の3教科等で実施している。しかし、日々の授業については、担任、専科、サポートルームを含む全教員が、どの教科においても、「分かった！できた！一緒に頑張れた！」の視点を意識して、授業づくりに取り組んできた。

また、「分かった！できた！一緒に頑張れた！」の視点を大切にするために、振り返りの視点を全学級に掲示している。この視点をもとに振り返りを記述させることで、児童が「何を学び、何ができるようになったか」という資質・能力を自覚できるようにした。

③いかにポイント

わかった

・〇〇がわかった。一歩だけ。一かんがえた。
・〇〇では、何かがわかった。
・あんなに、楽しかった。うれしかった。

できた

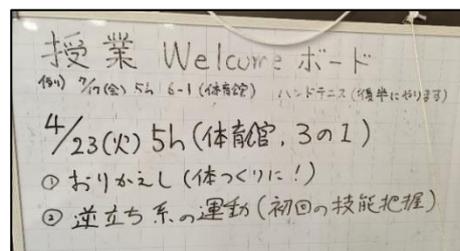
・〇〇ができた。もうすぐで、できそうになった。
・〇〇が、じょうずに、なった。ほろこった。
・きれいにできた。

いっしょに がんばれた

・〇〇が、おもしろく、おもしろく、おもしろく、おもしろく、おもしろく。
・〇〇が、じょうずに、おもしろく、おもしろく、おもしろく、おもしろく、おもしろく。

②授業 Welcome ボード

児童が「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を実感できるような授業を展開するためには、年6回の授業研究だけでなく、ふだんから授業改善を進めていくことが必要となる。そこで、教員室に「授業 Welcome ボード」を設置することで、教員がお互いに授業を見合う環境を整えた。算数科、体育科、特別活動だけでなく、特別の教科 道徳や ICT を活用した授業など、様々なテーマで授業を見合うようにしている。



③OJT、夏季教員研修会

学習指導、特別支援教育、若手相談会など、様々なテーマに対し、全主幹・主任教諭を講師として、OJTを実施している。また、夏季休業期間中には、算数や学級会の模擬授業、体育の実技研修を実施した。

令和7年度 OJT年間計画(案)

講師	日	内容	備考
吉羽先生	6月17日(火)	水泳実技研	中堅研I③
永橋先生→理科 木村先生→社会	6月27日(金)	理科・社会の授業の流れ 若手相談会・不登校の未然防止	人権研①⑦
佐藤亮先生	7月15日(火)	学級活動について	補習(3)
石山先生	9月18日(木)	学級経営で意識していること、実践していること	小学校科学展選考委員会 初任研⑥(特支)
後藤雅先生 杉山先生	10月3日(金)	勉強に苦手意識がある子が参加しなくなる授業づくりなど、授業づくりのポイント、評価方法等	生活科見学(1)中堅研⑧ ものづくり準備会②
	10月16日(木)	若手相談会、	初任研⑦ 小連合園工展始
酒井校長先生	10月23日(木)	教員の身を守るための学校法規 (押さえるべきポイント)	補習(6)
いろいろな先生	11月13日(木)	掲示物発表会(各学級の掲示物紹介)	生活指導主任会の 初任研⑧
いろいろな先生 ICTサポーター	1月20日(火)	年度末・来年度の授業・校務に生かせるICT活用	人権校発表(羽小)



児童の気持ちになり、三角形の面積の求め方を考えました。児童の考えをどのように取り上げ、集団解決するかについて、話し合いました。



模擬学級会を通して、教師はどのような場面で助言をしたらよいか、思考の流れが分かる構造的な板書は何かについて考えました。



壁倒立の基礎感覚づくり、児童同士のお手伝いの方法について、実技研修を通して学びました。教員も「できた！」を感じる事ができました。

④見守りの木

本校の正門の桜は、春になると美しい花を咲かせていた。また、暑くなると木陰を作り、児童は暑さを凌いでいた。しかし、病気により、今年度4月に伐採されることとなった。児童や教員、地域から大切にされてきた桜の木をイメージし、保護者や地域、おなづか小を去られた先生方より、「おなづか小のこどもたちを、ずっと見守っています。」という思いのメッセージを、葉の形の短冊に書いていただき掲示している。これにより、児童が、「自分たちは多くの人に支えられて、今の学校生活を送っている。」「自分はとても大切な存在だ。」ということを実感できるようにしている。



⑤成長の木 (キャリアパスポートの活用)

児童が「できるようになったこと」を明確にすることは、「次も頑張ってみよう。」と思う意欲や、「私はこんなに成長できているんだ。」と自己肯定感を高めることにつながる。また、友達と互いの成長を認め合うことは、集団として成長していくことにもつながる。



そこで、次学年への見通しをもたせたり、キャリアパスポートを活用した系統的な指導に役立てたりするために、学期末や行事後に、児童一人一人に対して「できるようになったこと」を葉の形の短冊に書かせて掲示し、自分や友達の成長を実感できるようにしている。

(3) 研究の分析について

授業研究や日常的な取組について、以下の方法で分析を行った。

①WEBQU

6月、11月に実施されるWEBQUは、不登校やいじめ、学級崩壊などの問題行動の予防や、より良い学級集団づくりに活用される。学級に対して肯定的に感じていることは、「明日も行こう」と思える楽しい学校につながると考え、学級満足群に属している児童の割合から、授業研究や日常的な取組について分析した。

②校内での児童アンケート

6月、11月、2月の年3回、児童に対して、Google Formを活用したアンケートを実施し、学習に対しての捉え方、意欲の高まり等について、分析した。

1	先生や友達の話最後まで聞いていますか。
2	ペアやグループで話し合うときに自分の意見を言っていますか。
3	授業で積極的に発言していますか。
4	最後まであきらめずに取り組んでいますか。
5	学習していておもしろい、楽しいと思うことがありますか。
6	学校の友達となかよく過ごすことができますか。
7	困っている友達を見かけたら、声をかけたり助けたりできますか。
8	友達と考えが違うとき、ゆずったり話し合っって別の方法を考えたりできますか。
9	学級や学年をよりよくしたり、役立つことをしたりしていますか。
10	学級や学年、委員会活動、クラブ活動などで、友達と一緒に目標を目指して活動するのは楽しいですか。
11	算数の学習の内容が分かるようになりましたか。
12	体育の学習ではできるようになったことが増えましたか。
13	学級や学年の友達と一緒に頑張っって活動できましたか。

※全学年の児童を対象にGoogle formを活用して実施

※1年生は、10月、2月の2回、2～6年生は、6月、10月、2月の3回実施

※11～13については、3回目のアンケートのみ調査

③インタビュー調査

授業研究や日常的な取組の効果を分析するために、児童に対してインタビュー調査を行った。インタビューの対象となる児童は、以下の方法で抽出した。

①WEBQUの結果で、第1回の調査より第2回の調査の結果が高まっていた児童をリストアップする。
②リストアップした児童のうち、校内での児童アンケート項目「4 最後まであきらめずに取り組んでいますか。」「5 学習していておもしろい、楽しいと思うことがありますか。」「6 学校の友達となかよく過ごすことができますか。」の3項目について、高まっていた児童をリストアップする。

抽出児童に対して、結果が高まった理由(例:学習が楽しく感じるようになったのは、なぜか。)や、友達との関わり等について、インタビュー調査を実施して、取組の効果を分析した。

4 研究経過

令和6年4月24日	研究全体会	令和6年度の校内研究の方向性と進め方について
6月26日 研究授業第1回 特別活動	第5学年「暑さをふっ飛ばそう集会をしよう」	授業者 木村 将 主任教諭 講師：帝京大学教職センター兼教育学部初等教育学科 准教授 佐野 匡 先生
9月24日 研究授業第2回 算数科	第3学年「あまりのあるわり算」	授業者 石山 佳祐 教諭 講師：小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲 先生
10月9日 研究授業第3回 体育科	第4学年「長なわ跳び」「壁逆立ち」	授業者 小金井 修 教諭 講師：筑波大学附属小学校 教諭 平川 譲 先生
10月23日 研究授業第4回 特別活動	第1学年「みんななかよしハロウィンパーティをしよう」	授業者 矢沢 美嶺 教諭 講師：帝京大学教職センター兼教育学部初等教育学科 准教授 佐野 匡 先生
12月4日 研究授業第5回 算数科	第6学年「並べ方と組み合わせ」	授業者 杉山 史典 主任教諭 講師：小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲 先生
令和7年1月22日 研究授業第6回 体育科	第2学年「動物歩き」「馬跳び」	授業者 遠藤 峻介 教諭 講師：筑波大学附属小学校 教諭 平川 譲 先生
3月13日	研究全体会	研究のまとめ（成果と課題） 令和7年度に向けての研究の方向性について
4月9日	研究全体会	令和7年度の校内研究の方向性と進め方について
6月18日 研究授業第1回 算数科	第2学年「3けたの数」	授業者 後藤 愛美 教諭 講師：小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲 先生
7月2日 研究授業第2回 体育科	第6学年「ダブルダッチ」「キャッチバレーボール」	授業者 後藤 沙衣子 教諭 講師：筑波大学附属小学校 教諭 平川 譲 先生
9月17日 研究授業第3回 体育科	第5学年「関所じゃんけん」「さかだちブリッジ」	授業者 吉羽 颯人 主幹教諭 講師：筑波大学附属小学校 教諭 平川 譲 先生
9月30日 研究授業第4回 算数科	第3学年「円と球」	授業者 後藤 雅人 主任教諭 講師：小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲 先生
10月7日 研究授業第5回 特別活動	第1学年「わくわく！あきをたのしむかいをしよう」	授業者 小林 麻奈美 教諭 講師：帝京大学教職センター兼教育学部初等教育学科 教授 佐野 匡 先生
10月14日 研究授業第6回 特別活動	第6学年「とうぶ移動教室、思い出を振り返ろう会をしよう」	授業者 永幡 知晃 主任教諭 講師：帝京大学教職センター兼教育学部初等教育学科 教授 佐野 匡 先生
令和8年1月30日	大田区教育委員会 教育研究推進校 研究発表	研究主題 「明日も行こう」と思える楽しい学校づくり ～不登校未然防止に向け「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を目指した指導を通して～

II 研究实践

第3学年 算数科学習指導案

日 時：令和6年9月24日（火）

対 象：第3学年 とことこコース 14名

授業者：教諭 石山 佳祐

1 単元名 「あまりのあるわり算」

2 単元の目標と評価規準

わりきれない場合の除法や余りについて理解し、計算することができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して、除法の意味や計算の仕方を具体物や図、式を用いて表す力を養うとともに、問題場面における数量の関係に着目し、数理的に処理した過程を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
わりきれない場合の除法の計算や余りと除数の大小関係について理解し、それらを活用して数量の関係をとらえることができる。	数量の関係に着目し、わりきれない場合とわりきれない場合の除法を統合してとらえ、除法の意味や計算に成り立つ性質について考え、説明している。	日常生活の問題を解決した過程や得られた結果を吟味したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

3 単元について

(1) 単元観

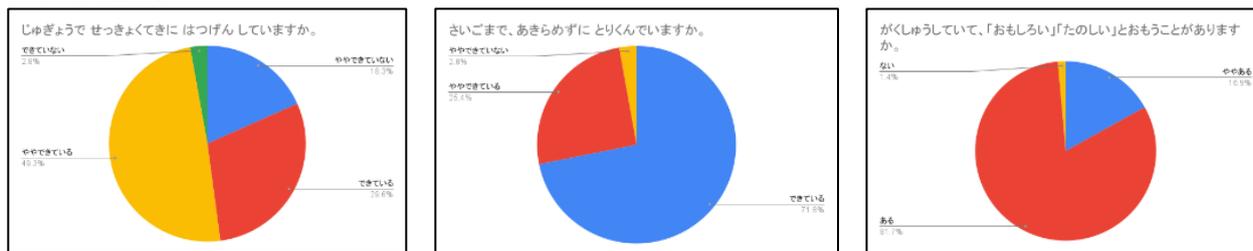
本単元で扱う内容は、学習指導要領（平成29年告示）解説算数編では、以下のように位置づけられている。

第3学年 A 数と計算 (4) 除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。 (イ) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 (ウ) 除法と乗法や減法との関係について理解すること。 (エ) 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。 (オ) 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知ること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

第3学年の既習単元「わり算」において『同じ数ずつ分け切る＝わり算』という感覚を覚えている中、本単元ではあまりが生じる場合があることに気付くこととなる。また、単なる乗法の逆演算だけでは答えを出せないこと、被除数に近い値に見当をつけて逆演算をし、減法を用いてあまりを出すことなど発展的な力が求められる。

本時においてはそのあまりの扱いを問題文の内容に応じて+1したり、余りを考えなかったりする問題に取り組んでいく。文章を理解して問題を解決する力を育成していきたい。

(2) 児童観



本校の第3学年では、すたすたコース（発展）、てくてくコース（標準）、とことこコース（基礎基本）の2学級3展開で指導している。学習に対して前向きに取り組む児童が多く、とことこコースの児童においても、少人数での環境下では落ち着いて取り組んでいる様子が見受けられる。また、個々のペースで意欲的に発言したり、説明に挑戦したりする姿が見られる。

除法に結び付く乗法の定着の難しさや、文章だけでは自分事に捉えにくい状況を鑑みて、実際に起きうる活動を通して、あまりの扱いを捉えやすくし、基礎基本の定着につながるようにしたい。

4 単元の指導計画

時	目標	・学習内容	評価規準(評価方法)
1	除数と商が1位数の除法でわりきれない場合の計算の仕方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • $14 \div 3$ の答えの見付け方を考える。 • 計算結果を式に表すと $14 \div 3 = 4$ 余り 2 となることを知る。 • 除法には、わりきれるときとわりきれないときがあることを知る。 	<p>【知・技】既習の除法の計算方法を用いて、わり切れない場合の除法についても計算することができる。(観察・ノート)</p> <p>【思・判・表】わり切れない場合の除法の計算の仕方について、既習のわり切れる場合の除法を基に考え、図や式を用いて説明している。(観察・ノート)</p>
2	余りと除数の関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • $13 \div 4$ の計算について余りと除数の関係を調べる。 	<p>【知・技】余りが除数より小さくなることを理解し、計算することができる。(観察・ノート)</p>
3	等分除の計算についても、包含除の計算の仕方を基に考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 題意をとらえ、$16 \div 3$ と立式し、答えの見付け方を考える。 	<p>【思・判・表】わり切れない場合の等分除の計算の仕方を、既習のわりきれの場合の除法を基に考え、図や式を用いて説明している。(観察・ノート)</p>
4	わりきれない場合の除法の計算について、答えの確かめ方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> • わりきれない場合を含む除法の答えの確かめ方を考える。 	<p>【知・技】わりきれない場合の除法の答えの確かめ方を理解している。(観察・ノート)</p>
5	わりきれない場合を含む、除法計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 計算練習と答えの確かめをする。 	<p>【知・技】わりきれない場合の除法の計算の商や余りを求めたり、確かめたりすることができる。(観察・ノート)</p>
6 本時	商や余りの意味に着目して、問題に応じた商の処理の仕方を考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> • 題意をとらえ、$23 \div 4$ と立式し、計算して答えを求める。 • 計算では5余り3だが、答えを5としてよいか話し合う。 • 答えは商+1になることをまとめる。 • 題意をとらえ、$30 \div 4$ と立式し 	<p>【思・判・表】商や余りの意味に着目して、問題に応じた商の処理の仕方を考え、説明している。(観察・ノート)</p> <p>【態度】計算した結果を吟味したことを振り返り、学習に生かそうとしている。(観察・ノート)</p>

		計算して答えを求める。 ・計算では7余り2だが、商をそのまま答えとしてよいか、それとも商+1とすべきかを話し合う。	
7	学習の内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	・「たしかめよう」に取り組む。 ・「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知・技】基本的な問題を解決することができる。(観察・ノート) 【思・判・表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。(観察・ノート) 【態度】単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。(観察・ノート)

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

問題場面、問題提示の仕方の工夫

児童によっては、除法の問題文だけでは内容をイメージしにくいこともある。さらに、問題によっては、余りを+1する場合、しない場合を判断する必要がある。そのために、課題把握では、身近な物事や日常的な場面を設定したプレ問題に取り組むことで、余りの処理を自分事として捉えられられるようにさせ、「分かった！」と感じられるようにさせたい。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

本時の学びを確認する練習問題

余りの処理は、問題文の意味を理解しないと難しい。そこで、本時では余りの捉え方について、定着を確認するために、教科書には載っていない適用問題に取り組ませる。本時の問題と同様に、適用問題でも友達に説明させることで、「できた！」を実感できるようにする。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

児童同士の話し合いを通じた学びの共有

集団検討では、話し合う視点を明確にすることで、深い学びにつながると考える。そこで「問題文の流れから余りをどう扱うか。」を話し合う視点として、説明する活動を取り入れる。視点を明確にすることで、相手の説明の内容についても、余りについて焦点化して話し合うことができる。また、余りの処理について、自分も相手も説明することで理解が深まり、「一緒に頑張れた！」と、感じることができる。と考える。

6 本時の展開 (6/7)

(1) 目標

商や余りの意味に着目して、問題に応じた商の処理の仕方を考え、説明することができる。

(2) 展開

時間	学習活動 T 主な発問 C 予想される児童の反応	○留意点 ☆評価 【 】評価の観点 () 評価方法
課題把握	<p><u>1 プレ問題に取り組む。</u></p> <p>プレ問題① 4人ずつに分かれて手をつないで輪を作ります。このクラスには14人います。輪は何こ作ることができますか。</p> <p>C: 2人しかいないところが一つある。 C: できる輪は3つ。1つは輪になっていない。</p> <p>プレ問題② このクラスの14人でかまちかグルメを食べに行こうと思います。4人乗ることができる車、何台かに分かれて行きます。全員乗るには車は何台あればよいでしょうか。</p> <p>C: 全員で行くから4台必要。</p> <p><u>2 本時の課題を把握する。</u></p> <p><u>1</u> ケーキが23個あります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいでしょうか。</p> <p>C: あまりが出そうだけど、あまりは、どうしたらいいのかな。 T: さっきの2つの問題のように、あまりは、どうなるか、理由をはっきりさせよう。</p> <p>【めあて】あまりをどうしたらいいのかを友達に説明しよう。</p>	<p>○日常的な除法の場面を2つ考えることで、余りについて焦点化する。</p> <p>○実際に4人ずつ集まらせることで、実感がもてるようにする。</p> <p>○立式と最終的な答えは求めるが、この場では余りの扱いに対して深く言及しない。</p>
自力解決①	<p><u>3 自力解決に取り組む。</u></p> <p>C1 $23 \div 4 = 5$ あまり 3 6箱 C2 $23 \div 4 = 5$ あまり 3 5箱</p>	<p>○立式に用いることができる数に注目させ、除数と被除数の関係を捉えやすくする。</p>
集団解決①	<p><u>4 全体で余りについて話し合う。</u></p> <p>T: あまりはどうしますか。 C: 全部のケーキを箱に入れなくてはいけないから、余っているケーキのために、もう1箱も必要。だから、$5 + 1$をして、答えは6箱になる。</p>	<p>○余りに焦点化して、話し合いができるようにする。</p> <p>○余りの処理の仕方がプレ問題②と同じことに気付かせる。</p>
自力解決②	<p><u>5 自力解決に取り組む。</u></p> <p><u>2</u> タイヤを4こ使って、おもちゃの車を作ります。タイヤは30こあります。車は何台作れますか。</p> <p>C3 $30 \div 4 = 7$ あまり 2 7台 C4 $30 \div 4 = 7$ あまり 2 8台</p>	<p>○立式に用いることができる数に注目させ、除数と被除数の関係を捉えやすくする。</p>

<p>集団解決②</p>	<p><u>6 全体で余りについて話し合う。</u> T: この問題では、余りはどうしますか。 C: あまった2こでは車ができない。作ることができる車の数は7台だから、答えは7台。 C: この問題では、余りは考えなくていい。</p>	<p>○余りに焦点化して、話し合いができるようにする。 ○余りの処理の仕方がプレ問題①と同じことに気付かせる。</p>
<p>まとめ</p>	<p><u>7 本時の学習をまとめる。</u></p> <p>【まとめ】 あまりは聞かれていることによって、あまりの分を考えて1をたすときと、あまりを考えずに答えを出すときがある。</p> <p><u>8 適用問題に取り組む。</u></p> <p>10月に遠足で平和の森公園に出かけます。3年1組35名を6人ずつのはんに分けます。 全員が行くためにはいくつのはんに分かれればいいでしょう。</p> <p><u>9 振り返りをする。</u> 本時の振り返りを書く。</p>	<p>○あまりをどう扱うか、というところに焦点を当てて説明することを伝える。 ○ペアまたはトリオで適用問題に取り組み、お互いに説明し合う活動を通してあまりに対する理解を深める。</p> <p>【思・判・表】 商や余りの意味に着目して、問題に応じた商の処理の仕方を考え、説明している。(ノート・発表) ○「わかった、できた、一緒に頑張れた」の視点で、振り返る。</p> <p>【態度】 計算した結果を吟味したことを振り返り、学習に生かそうとしている。(ノート)</p>

(3) 板書計画

㊦ あまりをどうしたらいいのかを考えて友達に説明しよう。

1 ケーキが23個あります。1箱に4このケーキを入れていきます。

$23 \div 4 = 5$ あまり3

あまりはどうする？

(5 + 1) 答え6箱

2 タイヤを4こ使って、おもちゃの車を作ります。

タイヤは30こあります。車は何台作れますか。

$30 \div 4 = 7$ あまり2

あまりはどうする？

答え7箱

㊦ あまりは聞かれていることによって、あまりの分を考えて1をたすときと、あまりを考えずに答えを出すときがある。

㊧ 10月に遠足で平和の森公園に出かけます。3年1組35名を6人ずつのはんに分けます。
全員が行くためにはいくつのはんに分かれればいいでしょう。

7 研究協議・指導講評

【成果】

- 単元に応じたプレ問題を扱うことで、児童同士で話し合う経験を積むことができ、その後の問題への興味関心を高めることができた。
- 動きを伴って考えさせる場面を作ることで、考えを表すことに苦手意識をもつ児童も問題を捉えやすくなった。

【課題】

- △時間に対しての問題数を考える必要があった。
- △考えさせるために書かせる量を調整する必要があった。
- △具体物の操作や図との関連付けの意識をもって、取り組めるようにするべきであった。
- △児童の声がもっと聞こえる授業展開になるように流れを考えていく必要がある。

【指導・講評】

講師 小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲 先生

- ・商と余りを求める問題では、余りも含める問題、余りを除く問題、分け方を変える問題において、計算の答えだけ求めるのではなく、説明できるようにすることを指導することが大切である。
 - ・プレ問題はさらに効果的な使い方があったのではないか。
 - ・①具体物の操作や図と関連付ける
 - ②日常に生かされることを実感する
 - ③関数を活用して解決したいという態度を育てる
- の3点を大切に本単元は進めていきたい。

第6学年 算数科学習指導案

日 時：令和6年12月4日（水）

対 象：第6学年 てくてくコース 26名

授業者：主任教諭 杉山 史典

1 単元名 「並べ方と組み合わせ方」

2 単元の目標と評価規準

順列や組み合わせについて、落ちや重なりのないように、起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を理解し、事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて落ちや重なりなく調べる方法を考察する力や筋道立てて考える力を養うとともに、数学的表現を用いて落ちや重なりのないように調べた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を育てる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
順列や組み合わせについて、落ちや重なりのないように調べるには、ある観点に着目したり、図や表などにかき表したりするとよいことを理解し、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができる。	事象の特徴に着目し、順列や組み合わせについて、落ちや重なりのないように図や表を適切に用いたり、名称を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道立てて考えている。	順列や組み合わせについて、図や表などを用いて工夫をしながら、落ちや重なりがないように調べた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今度の生活や学習に活用しようとしたりしている。

3 単元について

(1) 単元観

本単元で扱う内容は、学習指導要領（平成29年告示）解説算数編では、以下のように位置づけられている。

第6学年 D データの活用

(2) 起こり得る場合に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察すること。

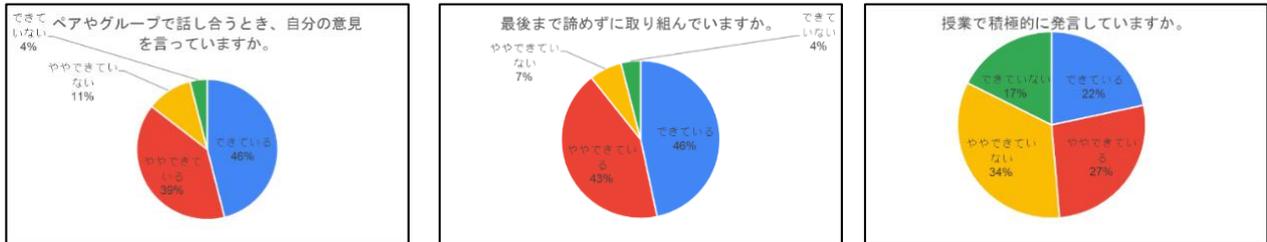
第5学年までに、表などを用いて分類整理して表したり読み取ったりすることを学習してきた。第6学年では、起こり得る全ての場合を適切な観点から分類整理して、順序よく列挙できるようにすることをねらいとしている。

本単元では、順列や組み合わせについて、事象の特徴に着目し、図や表を適切に用いたり、名称を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道立てて考えていく。数学的確率を求めるためには、同様に確からしいと考えられる全ての場合を正しく求める必要があり、本単元の順序よく整理して正しく数え上げたり、樹形図などに表したりする学習は、中学校での学習の素地となるものである。

起こり得る全ての場合を求めるために、思いつくまま列挙していたのでは、落ちや重なりが生じてし

まう。そこで、規則に従って正しく並べたり、整理して見やすくしたりして、誤りなく全ての場合を明らかにすることが必要となる。指導に当たっては、結果として何通りの場合があるかを求めるだけでなく、ある一つを固定して考えることや名称の省略、記号化して端的に書くなど、落ちや重なりがないように工夫して調べることよさを実感できるようにさせたい。また、図や表のかき方の習得だけでなく、状況に応じて図や表を適切に用いることによって、問題状況を把握する力の育成を目指したい。

(2) 児童観



本校の第6学年では、すたすたコース（発展）、てくてくコース（標準）、とことこコース（基礎基本）の2学級3展開で指導している。年度当初に比べ、自分の考えをノートに書こうとしたり、グループの友達と考えを伝え合ったりしようとする児童は増えてきた。学習についてのアンケートでは、「ペアやグループで話し合うとき、自分の意見を言っていますか。」という項目については85%の児童、「最後まで諦めずに取り組んでいますか。」という項目については89%の児童が肯定的な回答をしている。また、恥ずかしさなどから全体の場合では発表できない児童が多く、「授業で積極的に発言していますか。」という項目について、肯定的な回答をした児童は49%と低い結果となっている。

また、算数の内容の理解に時間を要する児童も多く、7月の東京ベーシックドリルの平均点は約60点と4年生までの学習内容の理解に課題がある。そのため、朝学習や放課後学習で基礎基本の復習ができるように指導してきた。また、自力解決が困難な児童や、自分の考えをもつことができても、図や既習内容等を根拠に他者に対して説明することが難しい児童もいる。

そこで、自力解決が困難な場合、友達と一緒に考えさせることで解決に近付くようにさせたり、既習事項をもとにして解決させたりしている。他者に対して説明する力を身に付けさせるために、2~3人で考えを検討する活動を取り入れ、多くの児童に説明する機会を与えるようにしている。

場合の数の学習では、ある一つを固定して考えることや名称の省略、記号化して端的に書くなどの方法などを取り上げながら、落ちや重なりがないように調べる方法を理解させていく。その上で、図や表を用いることで、より能率的に調べられることを少人数や全体での検討場面で取り上げ、よさを実感できるようにさせたい。

4 単元の指導計画

時	目標	・学習活動	評価規準（評価方法）
1	順列について、落ちや重なりがないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 落ちや重なりがないように、写真撮影時の4人の並ぶ順序を考える。 並ぶ人を記号化して考えるとよいことを知る。 表や樹形図を用いて考える。 表や樹形図を用いて調べ方について話し合う。 	<p>【思・判・表】事象の特徴に着目し、順列について、落ちや重なりがないように、記号化したり図や表を用いたりして、順序よく筋道立てて考え、調べている。（ノート）</p> <p>【態度】順列について、落ちや重なりがないように工夫して順序よく調べようとしている。（観察）</p>

2	順列について、落ちや重なりがないように調べる方法について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 4つの数字で2桁の整数が何通りできるか調べる。 メダルを3回投げたときの表と裏の出方が何通りあるか調べる。 	【知・技】順列について、落ちや重なりがないように順序よく整理して調べることができる。(ノート)
3 本 時	組み合わせについて、落ちや重なりがないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 4チームの総当たりの場合の試合数の調べ方を考える。 図や表を用いて考える。 多角形の辺や対角線を使った考えを知る。 	【思・判・表】事象の特徴に着目し、組み合わせについて、落ちや重なりがないように、図や表を用いて、順序よく筋道立てて考え、調べている。(ノート)
4	組み合わせについて、落ちや重なりがないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 5種類のアイスクリームから2つを選ぶときの組み合わせを考える。 身の回りから順列や組み合わせの場面を見つけて調べる。 	【知・技】順列や組み合わせについて、落ちや重なりがないように調べるには、図や表などを用いるとよいことを理解している。(ノート)
5	単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> レストランでできるセットメニューの組み合わせについて調べる。 	<p>【思・判・表】学習内容を適切に活用して筋道立てて考え、問題を解決している。(ノート)</p> <p>【態度】学習内容を生活に生かそうとしている。(ノート)</p>
6	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 「たしかめよう」に取り組む。 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<p>【知・技】基本的な問題を解決することができる。(ノート)</p> <p>【態度】単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。(ノート)</p>

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

自分の考えをもたせるための自力解決時の支援や発問の工夫

話し合いへの積極的な参加を目指し、自力解決で自分の考えをもてるようにさせる。そのために、

①本時の導入で、順列の学習内容を確認して、図や表などの調べる方法について振り返らせる。

②自分の考えをもてない児童に対して、「前回のように、図で表わせないかな。」と発問する。

これによって、自力解決時に自分の考えをもたせて、集団解決に参加させることで、児童が話し合いの内容を理解できるようにさせ、「分かった！」と思えるようにさせたい。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

数学的な見方・考え方の価値付け

本単元では、落ちや重なりがないように順序よく筋道立てて調べていく。そこで、単元を通して、

①「規則に従って正しく並べたり、表や図に表すことで見やすくしたりする」

②「1つを固定して考える」 ③「記号化して簡潔に表す」 ④「重なり処理の仕方を考える」

などの、数学的な見方・考え方を価値付けていくことで、問題場面が変わっても、児童が数学的な見方・考え方を働かせて、問題解決し、「できた！」と実感できるようにさせたい。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

式, 図, 表, グラフ等の数学的表現を用いた説明 (C1~C4 は、本時の展開を参照)

順列とは異なり、組み合わせでは、「A・B」と「B・A」は1つのものとして数える。そこで、組み合わせでは、起こり得る全ての場合を明らかにした後、結果を見直して重なりを消去する。そこで、

①列挙した試合から重なりを消す方法 (C1)

②二次元表を使う方法 (C2) ③四角形をかく方法 (C3) ④樹形図をかく方法 (C4)

などの考えで、どのように重なりを消去したかを説明させることを大切にし、考えの良さに気付くようにさせる。また、適用問題を自分が考えた方法以外で取り組ませることで、友達の考えの良さを体感し、「一緒に頑張れた！」ことを実感できるようにさせたい。

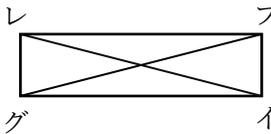
6 本時の展開 (3/6)

(1) 目標

組み合わせについて、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。

(2) 展開

時間	学習活動 T 主な発問 C 予想される児童の反応	○留意点 ☆評価 【 】評価観点 () 評価方法
課題把握	<p><u>1 既習事項の確認をする。</u> T: 前回の問題では、どのような方法で調べたでしょうか。 C: 順番に並べたり、樹形図をかいたりして調べました。</p> <p><u>2 本時の課題を把握する。</u></p>	<p>○前時の学習内容と調べ方を振り返ることで、学習の見通しがもてるようにする。</p>
7分	<p>T: レッド、ブルー、グリーンの3つのチームがバスケットボールの試合をするとき、全部で何試合の組み合わせが行われるでしょうか。 C: 3試合です。 T: 3チームだから3試合なのではないでしょうか。 C: チーム数が増えたら、試合数は多くなると思います。 T: それでは、ここにイエローが入って、4チームになったら、全部で何試合の組み合わせになるでしょうか。</p>	<p>○課題にスムーズに取り組めるようにするために、3チームでの組み合わせについて確認をする。</p> <p>○「チーム数≒試合数」であることから、課題意識をもたせ、本時の問題につなげられるようにする。</p>
	<p>【問題】 4つのチームでバスケットボールの試合をします。どのチームも、他のチームと1回ずつ試合をするとき、全部で何試合になりますか。</p> <p>T: 例えば、どのような組み合わせがありますか。 C: 「レッドチーム」と「ブルーチーム」 T: 「レッドチーム」と「ブルーチーム」が試合をするとき、これを1試合としましょう。何試合か調べるときに、気を付けることは何でしょうか。 C: 落ちや重なりが出ないようにすることです。</p>	<p>○いくつかの場合を取り上げ、2チームの組み合わせの個数を調べることを把握させる。</p> <p>○「レッドとブルー」、「ブルーとレッド」のような発言があっても、重なりについて言及しない。</p>
	<p>【めあて】 落ちや重なりが出ないように、組み合わせ方を調べるためには、どうしたらよいか考えよう。</p>	

	<p>C: 図や表をかきます。 C: 順序よく並べます。</p>	<p>○方法の見通しについて共有し、自分の考えをもてるようにする。</p>																																																					
自力解決12分	<p><u>3 自力解決に取り組む。</u></p> <p>C1: 組み合わせを列挙する。</p> <p>レッドの試合 レーブ レーグ レーイ ブルーの試合 ブーレ ブーグ ブーイ グリーンの試合 グーレ グーブ グーイ イエローの試合 イーレ イーブ イーダ</p> <p>C2: 対戦表をかく。 C3: 長方形をかく。</p> <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr><td></td><td>レ</td><td>ブ</td><td>グ</td><td>イ</td></tr> <tr><td>レ</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>ブ</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr> <tr><td>グ</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>イ</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>  <p>C4: 樹形図をかく。 C5: 表をかく。</p> <pre> レ / \ ブ グ / \ \ イ グ イ / \ \ ブ グ イ / \ \ グ イ </pre> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr><td>レ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ブ</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr> <tr><td>グ</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td></tr> <tr><td>イ</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr> </table>		レ	ブ	グ	イ	レ		○	○	○	ブ			○	○	グ				○	イ					レ	○	○	○				ブ	○			○	○		グ		○		○		○	イ			○		○	○	<p>○自分の考えを一つ書いたら、説明をノートに書いたり、他の方法について考えたりさせる。</p> <p>○悩んでいる児童に対しては、「前回のよう、図でも表わせないかな。」と発問し、方法を振り返ることができるようにする。</p> <p>○多くの児童が困っている場合は、教師のもとに集めて支援する。</p> <p>○レッドを「レ」、など、省略して表している児童を価値付ける。</p> <p>○重なりを消さずに、12 や 16 試合とする誤答が考えられる。机間指導では、誤答であることを指摘せずに、集団解決で取り上げる。</p>
	レ	ブ	グ	イ																																																			
レ		○	○	○																																																			
ブ			○	○																																																			
グ				○																																																			
イ																																																							
レ	○	○	○																																																				
ブ	○			○	○																																																		
グ		○		○		○																																																	
イ			○		○	○																																																	
集団解決16分	<p><u>4 3人組で調べ方を伝え合う。</u></p> <p>T: 3人組で調べ方を伝え合い、いつでも落ちや重なりが出ないようにするために、どれが良いか考えましょう。</p> <p><u>5 全体で調べ方を伝え合う。</u></p> <p>C: レッドからイエローまでの試合をそれぞれ書いて調べました。3×4で答えは12試合です。</p> <p>C: 僕は6試合でした。レッドとブルーの後に、ブルーとレッドがあるけど、これはもう終わっているから…。</p> <p>T: 落ちや重なりなど、算数の言葉で説明できますか。</p> <p>C: レとブ、ブとレなどの重なりは、消さないといけない。</p> <p>T: 考えを比べて、似ているところは、どこでしょうか。</p> <p>C: 同じ対戦は消して、重なりが出ないようにしている。</p> <p>C: 並べ方と同じで、順序よく書いている。</p>	<p>○グループで調べ方を伝えることで、全員が説明する機会を確保するとともに、多様な考えに触れられるようにする。</p> <p>○自力解決で全員の解答が6試合だった場合は、教師から「全部書いて12試合でしたが、これは違うのですか。」と発問する。これにより、重なりについて着目させ、数学的表現の良さを説明させる。</p> <p>○似ていることを問うことで、落ちや重なりが出ないための方法に着目させるようにする。</p>																																																					
まとめ10分	<p><u>6 本時の学習をまとめる。</u></p> <p>T: 落ちや重なりが出ないために、大切なことは何ですか。</p> <p>【まとめ】 並べ方も、図や表に表したり、順序よく書いたりすると、落ちや重なりなく調べられる。</p> <p>【練習】 4チームにホワイトチームが入りました。5チームで試合をするとき、全部で何試合になりますか。</p> <p>C: チームが増えていくと、四角形の考えは、難しそう。</p>	<p>○児童の言葉からまとめるようにする。</p> <p>【思・判・表】 ☆落ちや重なりがないように、図や表を用いて、順序よく筋道立てて考え、調べている。(ノート)</p>																																																					

<p>C：5チームの場合は、10試合になる。 8 振り返りをする。</p>	<p>○自力解決で考えた方法以外で適用問題に取り組みさせることで、多様な方法に触れさせる。</p>
---	---

(3) 板書計画

写真撮影の
並び方
樹形図、表
順序よくかく

問 4つのチームでバスケットボールの試合をします。どのチームも、他のチームと1回ずつ試合をするとき、全部で何試合になりますか。

め 落ちや重なりが出ないように、「組み合わせ方」を調べるためには、どうしたらよいか考えよう。

見通し：図や表をかく、順序よくかく

ま 並べ方も、図や表に表したり、順序よく書いたりすると、落ちや重なりなく調べられる。

レドの試合	レーブ	レーグ	レーイ	
ブルーの試合	ブ=レ	ブ=グ	ブ=イ	
グリーンの試合	グ=レ	グ=ブ	グ=イ	
イエローの試合	イ=レ	イ=ブ	イ=グ	

重なりを消している

	レ	ブ	グ	イ
レ		○	○	○
ブ			○	○
グ				○
イ				

試合をするところだけ○を付ける。重なるところは付けない。

練 4チームにホワイトチームが入りました。5チームで試合をするとき、全部で何試合になりますか。

7 研究協議・指導講評

【成果】

- 児童が黒板に考えを途中まで書き、その先を他の児童に考えさせたり、ペアで何をしたか話し合わせたりすることで、他の児童の考えの良さに気付かせることができた。
- 既習事項を確認することで、自力解決段階で自分の考えを書くことができていた。
- 集団検討で話し合った方法のうち、友達が考えたものを使って適用問題に取り組みさせた。思考・判断・表現の評価ができる適用問題となった。

【課題】

- △方法に着目するのであれば、先に答えを伝えてから、方法について焦点化させてもよかった。
- △導入場面での3チームの場合では何試合かについて、答えがバラバラであったが、それを確認する場面を設定できなかった。
- △並べ方と組み合わせの違いを理解できない児童がいたので、その児童への支援を適用問題の段階でしっかりと行うべきであった。

【指導・講評】

講師 小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲 先生

- ・話し合いを複数回（本時では5回）取り入れており、児童同士で考えを伝えることができていた。参加率を高めることができていた。
- ・3人の考えを取り上げる順番が、考えを深め、洗練させるためのものとなっていた。
- ・本時のめあてに対するまとめについては、再考した方がよい。並べ方とは異なり、組み合わせ方では、重なりを消すということ意識していない児童がいたので、重なりに焦点を当てたまとめの方がよかった。

第2学年 算数科学習指導案

日 時：令和7年6月18日（水）

対 象：第2学年2組26名

授業者：教諭 後藤 愛美

1 単元名 「3けたの数」

2 単元の目標と評価規準

1000までの数についてその意味や表し方を理解し、数の概念について理解を深め、図や式を用いて考える力を養うとともに、十進位取り記数法の仕組みを数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。	10 や 100 のまとまりに着目し、十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。	10 や 100 のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき、今後の生活や学習に活用しようとしている。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領解説（平成29年告示）算数編では、以下のように位置づけられている。

第2学年 A 数と計算

(1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。

(イ) 4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。

(ウ) 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

1000までの数の指導として、数をとらえるときに10ずつ、100ずつまとめて数える具体的な操作を通して、3位数の命数法と十進位取り記数法による数の表し方を指導する。この10ずつ、100ずつまとめて数える活動は、数の構成や今後の十進法の理解に役立つ重要なものであり、数の大小比較の方法や数の順序、系列などの理解にも通ずるため、実際に具体物を数えさせたり、数カードを活用したりしながら丁寧に指導していく。

(2) 児童観

本学級の児童は、与えられた課題に対して前向きに取り組もうとする児童が多い。算数の学習に関しては、興味関心をもち一生懸命に取り組んでいるが、理解することに時間がかかり、個別の指導を要する児童も多くいるため、単元の基礎基本となる時間はより丁寧に指導をしている。問題を解く際にも理解力の差は大きく、解き終わる時間の差も大きい。数について、丁寧な指導を繰り返すことによって、数の概念について理解できるようにさせたい。

4 単元の指導計画

時	目標	・学習活動	評価規準（評価方法）
1	3 位数の読み方や表し方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見て、235 個のクリップの数を工夫して数える。 ・ 235 の数構成と命数法、記数法を知る。 ・ クリップの数を数字で表す。 ・ 用語「百の位」を知る。 	【知・技】 3 位数の読み方や表し方を理解し、3 位数を書いたり読んだりすることができる。（ノート） 【態度】 10 や 100 のまとまりに着目することのよさに気づき、クリップの数を工夫して数えようとしている。（ノート・観察）
2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 205 個のブロックの数を数字で表す。 ・ 棒や色紙の数を数字で表す。 ・ 3 位数を書いたり読んだりする。 	
3	数カードを並べて数を表すことを通して、3 位数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 位取り板と数カードを使って、各位の数を読み取ったり、3 位数を数カードで表したりする。 	【知・技】 3 位数の各位の数字はそれぞれ 100、10、1 の単位の個数を示し、10 以上の数が入らないことを理解し、3 位数の構成を等式で表すことができる。（ノート）
4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 位数の構成を基にした表し方（合成・分解）を練習する。 ・ 3 位数の構成を、等式を使って表す。 	
5	230 などの数について、数のまとまりに着目して、数の相対的な大きさをとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 円玉が 14 枚でどれだけになるかを、10 を単位にして考える。 ・ 230 円は 10 円玉で何枚になるかを、10 を単位にして考える。 	【思・判・表】 数のまとまりに着目し、230 などの数を 10 を単位としてとらえている。（ノート・観察）
6	数直線の読み取りを通して、3 位数の大小、順序を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数直線を見て指示された目盛りの数を読んだり、数直線上に数を表したりする。 	【知・技】 数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。（ノート）
7	1000 の構成、数の読み方、書き方及び 1000 付近の数を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図の●の数を工夫して数え、百を 10 こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くことを知る。 	【知・技】 百を 10 こ集めた数を「千」をいい、「1000」と書くこと、及び 1000 付近の数を理解している。（ノート・観察）
8 本時	1000 までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 780 のいろいろな見方を表現する。 ・ 表現した見方を式に表す。 	【思・判・表】 数の構成に着目し、1000 までの数の多様な見方について考え、説明している。（観察・ワークシート・発表）
9	何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10 枚の束の色紙の絵を見て、$50+70$、$120-30$ の計算の仕方を考える。 ・ 100 枚の束の色紙の絵を見て、$300+200$、$600-200$ の計算の仕方を考える。 ・ 10 や 100 を単位にして数を単位としてとらえると、1 位数の加減計算に帰着で 	【知・技】 何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。（ノート） 【思・判・表】 何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明してい

		きることをまとめる。	る。(ノート・観察)
10	不等号「 $>$ 」「 $<$ 」を知り、数の大小関係を式に表すことができる。	・3つの学校の児童数の大小を比較する。 ・不等号「 $>$ 」「 $<$ 」を用いた式の表し方を知り数の大小を不等号を用いて表す。	【知・技】不等号の意味を理解し、数の大小関係を不等号を用いて式に表すことができる。(ノート)
11	数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。	・問題を読み、150円で買える品物を調べる。 ・数と式の大小、相等関係の表し方を知る。	【知・技】数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。(ノート)
12	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	・「たしかめよう」に取り組む。 ・「つないでいこう 算数の目」に取り組む。	【知・技】基本的な問題を解決することができる。(ノート) 【思・判・表】数学的な着眼点と考察の対象を明らかにし、学習を整理している。(ノート) 【態度】振り返り、今後の学習に生かそうとしている。(ノート)

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

自分の考えをもたせるための自力解決時の支援や発問の工夫

本時では、児童が一つの数に対して、多様な見方をできるようにさせたい。そのために、

①数直線の拡大図を準備する。 ②数直線を印刷したプリントを活用する。

導入では、0～30程度の小さい数直線(目盛りなし)の拡大図を意図的に提示し、目盛りがもつ大切な役割について考えさせる活動を通して、目盛りをよく見て考えることを意識させたい。

また、自力解決時に、児童が意欲的にいろいろな数の見方ができるように、数直線を印刷したプリントを準備し、自分で考えた数の見方を用紙に表現させる。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

基礎基本の定着を図るための指導の継続

毎時間の学習では、自力解決で自分の考えがもてるようにするために、既習事項を大切に指導している。そこで、導入での復習だけでなく、既習事項を教室内に掲示する。これにより、児童が既習事項をいつでも確認できる環境を整え、前時の学習を振り返るときや自分の考えを表現するときのヒントとして活用する。これにより、困ったときには既習事項を振り返ることで、「できた！」を実感し、基礎基本の定着を図るようにする。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

ペア→全体の流れで行う学び合いのスマールステップ

本時では、「1つの見方だけではなく、いろいろな見方がある」ことに気付き、数の見方を豊かにすることが目標である。そこで、3人グループ、全体での学び合いの時間を確保する。3人グループの際に自力解決でもった自分の考えを言葉にして伝え合う。その後、全体で考えを共有することを通して、数の見方を豊かにさせたい。

6 本時の展開 (8/12)

(1) 目標

1000 までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。

(2) 展開

時間	学習活動 T 主な発問 C 予想される児童の反応	○留意点 ☆評価 【 】評価観点 () 評価方法
課題把握 10分	<p>1 既習事項を確認する。 T: この数はどんな数と言えますか。 C: 目盛りや数字がないと分からない。</p> <p>2 数字や目盛りを加えた数直線を提示する。 T: この数はどんな数と言えますか。 C: 27 は 30 より 3 小さい数。 C: 27 は 20 より 7 大きい数。</p> <p>3 学習問題を知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【問題】 780 はどんな数と言えますか。</p> </div> <p>4 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【めあて】 780 はどのような見方ができるか考えよう。</p> </div>	<p>○線のみの数直線を掲示し、数字や目盛りが記されていないと分からないことを確かめる。</p> <p>○数字や目盛りを加えた数直線を提示し、目盛りがもつ大切な役割について気付かせる。</p> <p>○学習問題を提示し、児童との話し合いからめあてを確認する。</p>
	<p>5 教科書 p. 58～59 の数直線の構造を確認する。 T: 目盛りをよく見ましょう。 一番小さい目盛りが表している大きさはいくつかな。 C: 100、200…と目盛りの数が 100 ずつ増えている。 C: 大きい目盛りの真ん中にちょっと長い目盛りがある。 100 の半分だから 50 かな。 C: 一番小さい目盛りは、100 を 10 こに分けているから 10 です。</p> <p>6 数直線上における 780 の位置を確認する。 T: 780 は数の線上のどこになるかな。 C: 700 より右に 8 目盛りのところです。 C: 800 より左に 2 目盛りのところです。</p>	<p>○教科書 p. 58～59 と同じ数直線の拡大図を準備し、数直線上の 780 の位置を確かめる。</p> <p>○数直線上における 780 の位置を確認することで同じ数でも異なる見方があることを確かめさせる。</p>
自力解決	<p>7 自力解決をする。 780 をいろいろな見方で考え、プリントに書く。 T: 780 の表し方を考えてみましょう。 C: 780 は 700 より 80 大きい数。</p>	<p>○児童が意欲的に活動できるように、数直線を印刷したプリントを用意しておき、児童に配布する。そして、自分の数の見方を用紙に表</p>

5分	<p>C : 780 は 800 より 20 小さい数。 C : 780 は 750 より 30 大きい数。 C : 780 は 100 を 7 こ、10 を 8 こ集めた数。 C : 780 は 10 を 78 こ集めた数。 C : 780 は 500 より 280 大きい数。</p>	<p>現させる。 ○机間指導を行い、手が止まっている児童に掲示物をヒントにすることや個別に声を掛けるなどの支援をする。</p>
集団解決 16分	<p>8 考えを発表し合い、検討する。(3人→集団) T : 780 をどのように表したか、考えを伝え合いましょう。 C : 780 は 700 と 80 をあわせた数。 C : 780 は 700 より 80 大きい数。 16 C : 780 は 800 より 20 小さい数。 C : 780 = 700 + 80 T : グループで話合ったことをホワイトボードにまとめて、発表しましょう。 T : みんなの考えを聞いて、似ているなど思ったところがありますか。 C : 1 班と 5 班は 700 から見て考えている。 C : 3 班と 4 班は 800 から見て考えている。 C : 7 班は 10 のまとまりで考えている。 C : 「あわせる」と「足し算」は同じだと思う。</p>	<p>○児童全員が自分の考えを伝え、友達の考えを聞くために、まずは3人グループで話合いの場を設ける。 ○集団での話合いでは、ホワイトボードに児童の考えを書き込み、一人一人の見方・考え方を全員で共有できるようにする。 【思考・判断・表現】 数の構成に着目し、1000 までの数の多様な見方について考え、説明している。(観察・プリント・発表)</p>
まとめ 10分	<p>9 学習のまとめをする。 T : 780 という数の表し方を考えて、分かったことや気付いたことはありますか。 10 C : 780 を 700 から見たり、800 から見たりすることで、いろいろな表し方を見付けることができた。</p>	<p>○700 から見ると「780 は 700 より 80 大きい」、800 から見ると「780 は 800 より 20 小さい」など、基点となる数をどこに置くかで説明の仕方が変わることを確かめる。</p>
<p>【まとめ】 1つの数でも、いろいろな見方ができる。</p>		
10	<p>練習問題に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【練習】 460 はどんな数といえますか。</p> </div> <p>T : 460 はどのように表せるか2つの考えを書いてみましょう。 C : 460 は 400 と 60 をあわせた数。 C : 460 は 400 より 60 大きい数。 C : 460 は 500 より 40 小さい数。 C : 460 は 100 を 4 こ、10 を 6 こ集めた数。 C : 460 は 10 を 46 こ集めた数。</p> <p>11 本時の学習を振り返る</p>	<p>○学習のまとめとして、練習問題に取り組ませ、本時の学習を振り返るとともに、基礎基本の定着を図る。 ○「分かった」「できた」「一緒に頑張れた」の観点で振り返りを行う。</p>

(3) 板書計画

数直線を貼る

780 はどんなかずといえますか。

1つのかずでも、
いろいろな見方ができる！

780 はどのような見方ができるか考えよう。

れんしゅう
460 はどんなかずといえますか。

しほ 780は、700と80をあわせた数です。
何百と何十で考えた。

りく 780は、800より20小さい数です。
800とのちがいを考えた。

みさき 780は、10を78こあつめた数です。
10を10こ、20こ、30こ、40こ、50こ、60こ、70こ、78こ
10をもとにして考えた。

7 研究協議・指導講評

【成果】

- 小集団での話し合いやホワイトボードを用いた全体検討を通して、数の見方・考え方が広がった。
- 数直線で780の位置を確認することで、つまづいている児童も数の大きさがとらえやすかった。
- ワークシートを用いることで、どの児童も見通しをもって学習活動に取り組むことができた。

【課題】

- △導入のプレ問題で、教師が数の見方を提示したのは有効であったか。
- △ホワイトボードに考えを書く時の選ぶ基準について、何をもって「いい考え」といえるか。

【指導・講評】

小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲 先生

- ・数の大きさへの感覚を豊かにするには、具体物を数える経験をさせること。
- ・フラッシュカードを用いたり、ゲームをしたりしながら数の見方や量感を養わせていくこと。
- ・教師が絶対におさえたいことは、必ず児童から引き出すようにする。(教師からは言わない)
- ・小集団での話し合いの他に、「自分と考えが違う人を探しなさい」と自由に話し合わせる方法もある。

第3学年 算数科学習指導案

日 時：令和7年9月30日（水）

対 象：第3学年てくてくコース1 30名

授業者：主任教諭 後藤 雅人

1 単元名 「円と球」

2 単元の目標と評価規準

円や球を構成する要素や性質について理解し、コンパスを用いた作図や長さをはかり取ったり移したりすることができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して構成の仕方や身の回りのものを円や球として考える力を養い、図形をかいたり確かめたりする活動を振り返り、今後の生活や学習に活用しようとしている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
円の中心や半径、直径について、及び、円に関連して球の直径などを理解し、それらを活用してコンパスで円をかいたり、等しい長さをはかり取ったり移したりすることができる。	円や球を構成する要素に着目し、構成の仕方や身の回りのものに図形の性質がどのように活用されているかについて考え、説明している。	円や既習の図形の作図を基に模様をかくなどの活動を通して、身の回りから円や球を見つけたり、図形のもつ美しさに関心をもったりしたことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとしている。

3 単元について

(1) 単元観

本単元で扱う内容は、学習指導要領（平成29年告示）解説算数編では、以下のように位置づけられている。

第3学年 B 図形

(1) 図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ウ) 円について、中心、半径、直径を知ること。また、円に関連して、球についても直径などを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形を構成する要素に着目し、構成の仕方と考えるとともに、図形の性質を見だし、身の回りのものの形を図形として捉えること。

(6) 内容の「B 図形」の(1)の基本的な図形については、定規、コンパスなどを用いて、図形をかいたり確かめたりする活動を重視するとともに、三角形や円などをもとにして模様をかくなどの具体的な活動を通して、図形のもつ美しさに関心をもたせるように配慮するものとする。

本単元では、円や球を構成する要素やその関係に着目し、円や球の構成の仕方について考え、理解し、円の作図や長さをはかり取ったり移したりするなどコンパスを用いて処理する力を育成する。すなわち、本単元の学習を通して、図形を構成する要素に着目し、構成の仕方について考える力を伸ばさせていくのである。その中で、図形の性質にも気付かせていくことになる。

(2) 児童観

第3学年では、すたすたコース（発展）、てくてくコース1・2（標準）、とことこコース（基礎基本）の3学級4展開で指導している。学習に対して前向きに取り組む児童が多く、どのコースにおいても、落ち着いて取り組んでいる様子が見受けられる。最後まで先生や友達の話聞き、与えられた課題に対して最後まであきらめずに前向きに取り組もうとする児童が多い。一方で理解することに時間がかかり、個別の声掛けを要する児童も多くいるため、単元の基礎・基本となる時間はより丁寧に指導をしている。

4 単元の指導計画

時	目標	・学習活動	評価規準（評価方法）
1	中心、半径の用語を知り、円の構成の仕方や性質について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> かごからの距離が等しくなる並び方を考え、並び方を線で表す。 かごからの距離が等しくなるように並ぶとき、人数が増えればきれいなまるい形になることをとらえる。 	<p>【知・技】 まるい形をかく活動を通して、円や中心、半径の意味を理解している。（ノート）</p> <p>【思・判・表】 円の中心や半径の長さに着目して、円の構成の仕方や性質について考え、説明している。（ノート）</p>
2		<ul style="list-style-type: none"> 簡易コンパスを使って、円をかく。 「円」の定義、及び「中心」「半径」の意味を知る。 1つの円に半径となる線をたくさんひいて、半径は無数にあることや、どれも等しい長さであることを確認する。 	
3	直径の意味や直径と半径の関係を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 円の中心の見付け方を考える。 「直径」の意味を知る。 直径と半径の長さの関係をまとめる。 円周上の2点を結ぶ直線のうち、最長なのが直径であることを確認する。 	<p>【知・技】 紙で円を作り、半分に折る活動を通して、直径や直径と半径の関係を理解している。（ノート）</p> <p>【思・判・表】 半径や直径の意味に着目して、円の中心の見付け方を考え説明している。（ノート）</p>
4	コンパスを使って、円をかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 円をかくにはコンパスを使うと便利であることを知る。 コンパスの使い方に注意して、指定された半径の円や模様をかく。 	<p>【知・技】 コンパスを用いて、指定された半径の円やその一部を使った模様をかくことができる。（ノート）</p>
5	コンパスを使って、模様づくりをすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 模様を観察し、模様づくり方を考えることができる。 模様づくりを通して、コンパスの使い方と円のかき方に習熟する。 	<p>【知・技】 円の構成の仕方を考えたり、コンパスで円を作図したりすることができる。（ノート、発言）</p>
6	コンパスは等しい長さをじはかり取ったり移したりすることができることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 直線と折れ線の長さを比較する方法を考える。 コンパスを用いて、長さを比較する。 ボールなどの具体物を真上や真横から観察する。 	<p>【知・技】 コンパスを用いて、等しい長さをはかり取ったり、移したりすることができる。（ノート）</p>
7	球の特徴について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 「球」や球の「中心」、「半径」、「直径」について知る。 球の形をしたものの直径の長さをはかる。 	<p>【知・技】 どこから見ても円に見える形を「球」ということや、球の中心や半径、直径の意味、球はどこを切っても切り口が円になることを理解している。（ノート）</p>
8	球の直径や半径の性質をもとに、球の収まる箱の縦や横の長さ、高さを求め、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 球の入っている箱の長さの求め方を考え、説明する。 	<p>【思・判・表】 学習内容を適切に活用して、筋道立てて考えたことを説明している。（ノート）</p>
9	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 「たしかめよう」に取り組む。 「つないでいこう 算数の目」に取り組む。 	<p>【知・技】 基本的な問題を解決することができる。（ノート）</p> <p>【思・判・表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。（ノート）</p>

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

問題場面、問題提示の仕方の工夫

自力解決の場面では、児童が円や球の特徴を直感的・視覚的にとらえられることが必要だと考える。そのために、具体物や操作できる教材を提示する。例えば、コンパスやひも、円型の型（カップの底など）、実物の球（ピンポン玉・野球ボールなど）を机上に用意することで、児童が実際に手を使って円を描いたり、球を観察したりできるようにすることで、「分かった！」と感じる児童が増えるであろう。

自分の考えをもたせるための自力解決時の支援や発問の工夫

自力解決の場面では、児童が自ら思考をすすめ、「分かった！」と感じられるように、考える手がかりとなる発問を工夫する。その際、すぐに解決方法を示すのではなく、既習内容とのつながりを意識させたり、図や式を用いて思考を可視化させたりする発問を行うことで、自分なりの考えをもって課題に向かう姿を引き出す。「なぜそう考えたのか。」「他の考え方はあるのか。」といった問いを通して、思考の深まりや多面的な捉え方を促すようにする。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

基礎基本の定着を図るための指導の継続

児童が自力解決で自分の考えをもつためには、既習事項を使えることが大切だと考える。そこで、既習事項を活用して問題を解決できるようにするために、毎時間の学習が終わるごとに、既習事項を振り返る掲示物を作成し、教室内に掲示する。毎時間の学習では、前時の学習を振り返るときや自分の考えを表現するときのヒントとして活用し、児童全員が既習事項をいつでも確認できる環境を整えることによって基礎基本の定着を図っていく。

また、円や球の特徴を理解させるために、児童が円や球の構成要素を正確に理解し、言葉と結び付けて考えられるようにする。そこで、図に書き込みながら確認し、友達に説明する活動を取り入れる。図に書き込むようにすることで、自分や友達の思考を可視化し、「できた！」を実感できると考える。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

学び合いのスマールステップ

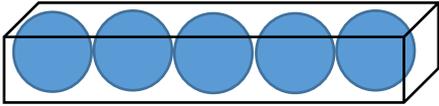
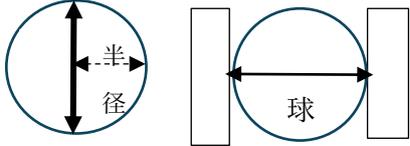
深い学びのためには、自分の考えを言葉にして伝え合うことが必要だと考える。そのために、式から考えを読み取る活動を全体やペアで行う。まず、「 8×5 」の式が、「直径 $\times 5$ 個分」であることを確認する。その後、「 4×10 」の式の意味をペアで考えさせる。図形と数、式を関連付けて説明させる。このように、一部の児童の発表だけで授業が進まないように、児童一人一人が説明する機会を設定することで、「一緒に頑張れた！」を実感することができると考える。

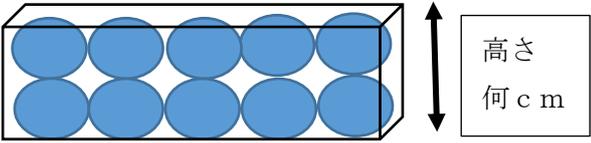
6 本時の展開 (8/9)

(1) 目標

球の直径や半径の性質をもとに、球の収まる箱の縦や横の長さを求め、説明することができる。

(2) 展開

時間	学習活動 T 主な発問 C 予想される児童の反応	○留意点 ☆評価 【 】評価観点 () 評価方法
課題把握	<p><u>1 課題把握 (既習事項の確認)</u></p> <p>T: これまでの学習は、壁に掲示してあるから困ったらこれを見るようにしましょう。</p> <p>T: ここに直径の長さが 10 cm の球があります。</p> <p>上から球を見ると、円。下から見ても、円。横から見ても円。いまから、この球を箱に入れます。</p> <p>T: ぴったりと箱にはまりました。</p> <p>T: この箱のたてと横の長さは何 cm? C: 10 cm。</p> <p><u>2 学習問題を知る</u></p> <p>T: この箱は、何 cm でしょうか。</p> <p>C: 見ただけでは、分からない。定規は使えますか。</p> 	<p>○1 つ分となる実物の箱と球を見せて、課題把握する。</p> <p>○円や球の掲示物を教室内に提示し、半径・直径について確認する場を設ける。</p>  <p>○球は横から見ると円であり、上から見ても円に見える特徴を想起させておく。</p> <p>○今回のキーワードである、直径・半径・いくつ分を板書する。</p> <p>○児童との話し合いからめあてを確認する。分かっていることや求めないといけないことを一緒に確認し、自力解決時の見通しにつなげる。</p>
	<p>【問題】 半径 4 cm の球が 5 こぴったり入っているはこがあります。このはこのたてと横の長さは、それぞれ何 cm ですか。</p> <p><u>3 本時のめあてを確認する。</u></p> <p>T: 今日のめあては、どうしますか。球がすき間なく箱に入っています。どんなことを考えればいいですか。</p> <p>C: 球の大きさを使って、箱の横と縦の長さを出す。</p> <p>【めあて】 球をつかって、はこのたてと横の長さを考えよう。</p>	<p>○考えを書き込むための図を配布する。</p>
自力解決	<p><u>4 自力解決に取り組む</u></p> <p>C1: 式で考える。</p> <p>$4 \times 2 = 8$ $8 \times 5 = 40$ <u>答え 縦 8 cm、横 40 cm</u></p> <p>C2: 言葉で説明する。</p> <p>縦の長さが、直径 8 cm が 1 つ分で 8 cm。</p> <p>横の長さが、直径 8 cm が 5 つ分で 40 cm。</p> <p>C3: 図と言葉を組み合わせる。</p> <p>球の半径は 4 cm。直径は、半径の 2 倍だから 8 cm になる。縦の長さは、ぴったり入っている箱だから球 1 つ分の直径の長さと箱の縦の長さが同じだということが分かる。</p> <p>C4: 縦は球が 1 こ。→ $8 \times 1 = 8$ 縦は 8 cm です。</p>	<p>○自分の考えをノートにまとめる。図や式を使って、かくように促す。</p> <p>○机間指導を行い、手が止まっている児童に掲示物をヒントにすることや個別に声を掛けるなどの支援をする。</p> <p>○自力解決につまずいている児童へは、具体物を見るように前方へ誘導する。</p>

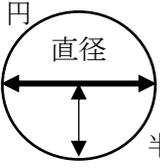
	<p>横は、球が5つ分。→$8 \times 5 = 40$ 横は40 cmです。 C5: 半径の10個分 $4 \times 10 = 40$ 横は40 cmです。</p>	
集団 解決 20分	<p><u>5 全体で調べ方を伝え合う。</u> T: 箱の大きさはどうになりましたか。 C: たて8 cm、横40 cm。 T: 式はどうになりましたか。(C1さん) C: $4 \times 2 = 8$ $8 \times 1 = 8$ $8 \times 5 = 40$ <u>答え 縦8 cm、横40 cm</u> T: かけ算の式の意味について説明できますか。(C2さん) C: 半径が4 cmで直径は、半径の2つだから8 cm。 たての長さが、直径8 cmが1つ分で8 cm。 横の長さが、直径8 cmが5つ分で40 cm。 答えは、たてが8 cm・横が40 cmになる。</p> <p><u>6 3人グループを用いて、誤答を取り上げる。</u> T: たては、$4 \times 1 = 4$。横は、$4 \times 5 = 20$。になった間違えた考え方があったのだけど、どこが間違っているのか3人グループで話し合いました。 T: $4 \times 10 = 40$ は、どんな考え方ですか。</p>	<p>○自力解決の際には、机間指導を行い、取り上げる順番と内容を厳選する。</p> <p>○集団での話し合いでは、ワークシートに児童の考えを書き込み、一人一人の見方・考え方を全員で共有できるようにする。</p> <p>☆【思・判・表】学習内容を適切に活用して、筋道立てて考えたことを説明している。(ノート)</p> <p>○3人グループで考え方を伝えることで、全員が説明する機会を確保する。</p> <p>○半径の10個分の式を立てる人がいた場合は、最後に式から取り上げて考え方を共有する。</p>
まと め 10分	<p><u>7 学習のまとめをする。</u> T: 今日は、球の大きさをもとに箱の縦と横の長さを求めることができましたね。 T: そういえば、箱の高さって何 cmなのかな。 C: 8 cm。球は、どこの長さも同じだから。 T: 箱の長さは球の何を使って、どう考えたの。 C: 箱の長さは、球の半径や直径を使ってできた。球のいくつ分かを考えた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 球の半径や直径をつかって、球のいくつ分かを考えると、はこの長さが分かる。 </div> <p><u>8 練習問題に取り組む。</u> T: では、高さが2段になったら高さはいくつになるかな。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 【練習問題】半径4 cmの球が2段になりました。はこの高さは何 cmになりますか。 </div>	<p>○基にするものといくつ分かを板書を通して、まとめにいかす。</p> <p>○学習のまとめとして、適応問題に取り組み、本時の学習を振り返るとともに、基礎基本の定着を図る。</p> <p>○説明のキーワード(直径、半径、いくつ分)を用いる。</p>
	<p>C: $4 \times 2 \times 2 = 16$ C: $8 \times 2 = 16$ <u>答え 16 cm</u> T: 球の大きさは、たても横も高さも同じだということでしたね。今日は、球を使って箱の長さを考えました。</p> <p><u>9 本時の学習を振り返る</u></p>	<p>○「分かった」「できた」「一緒に頑張れた」の観点で振り返りを行い、学習への意欲付けをしていく。</p>

(3) 板書計画

9/30 (火)

④球をつかって、はこのたてと横の長さを考えよう。

円



直径

半径

見方

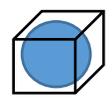
どちらも円



上

横

箱の大きさは？

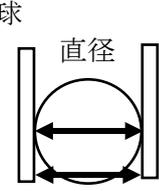


たて 10 cm

横 10 cm

高さ 10 cm

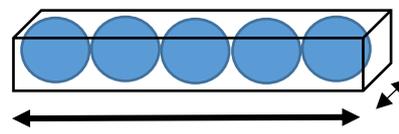
球



直径

半径

半径 4 cm の球が 5 こびったり入っているはこがあります。この箱のたてと横の長さは、それぞれ何 cm ですか。



半径の 2 倍 → 直径

式 $4 \times 2 = 8$

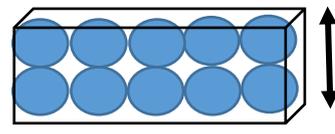
直径 × いくつ分 = はこの長さ

$8 \times 5 = 40$

答え たて 8 cm 横 40 cm

④球の半径や直径をつかって、球のいくつ分か考えると、はこの長さがわかる。

発てん問題



★ 2 だんの高さは？

式 $4 \times 2 \times 2 = 16$

答え 16 cm

式 $4 \times 10 = 40$

半径 × 10 個分

7 研究協議・指導講評

【成果】

- 全体で答え、「直径×いくつ分」の式を確認したことで、ペア学習で式の意味を確認した際に、考え方が広がった。
- 集団検討までは「縦と横」に焦点を当て、練習問題では「高さ」に焦点を当てた。学習したことを活用するための練習問題の内容が有効的だった。
- 児童が視覚的に捉えられるようにするために、教具を作成するなど、丁寧な教材研究・準備ができていた。また、課題把握での既習事項の確認も丁寧に行われていた。

【課題】

- △導入では、問いを児童から引き出せたか。箱のサイズを求める目的があると良い。
- △箱の縦と横の長さを求めるというめあてが、児童に伝わるようにすると良かった。
- △「何を話し合うのか。」という、話し合いの目的を明確にさせると良かった。

【指導・講評】

講師 小金井市立前原小学校 校長 小柳 政憲 先生

- ・量感を身に付けるために、円と球の学習の後に「どれくらいの大きさですか。」の問いに「直径〇〇cm くらい」と答えられるようになるとよい。
- ・「一緒に頑張れた！」を実感させる教材にしていくことが重要であり、例えば、
①解決のための目的意識 ②多様なアイデア ③想定外の考えに触れさせる
などを意識すると良い。
- ・「一緒に頑張れた！」を実感させるために、これまでの問題と同じように見たり、考えたりさせる、どうやったら解決できたかななどを問うなどの視点を教師が与えていけると良い。

第4学年 体育科学習指導案

日 時：令和6年10月9日（水）

対 象：第4学年3組28名

場 所：体育館

授業者：教諭 小金井 修

- 1 単元名 長なわ跳び むかえ回し（体づくり運動：多様な動きをつくる運動）
かべ逆立ち（器械運動：マット運動）

2 単元の目標と評価規準

長なわ跳び むかえ回し（体づくり運動：多様な動きをつくる運動）

- (1) むかえ回し跳びの行い方を知り、タイミングよくなわに入り、なわをリズムよく連続で跳ぶことができるようにする。
- (2) 動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、考えたり、見付けたりしたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) 友達にすすんで助言をしたり、励ましたりする態度を養う。

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①むかえ回し跳びの行い方を知り、タイミングよくなわに入ることができる。 ②なわをリズムよく連続で跳ぶことができる。	①動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、考えたり、見付けたりしたことを友達に伝えている。	①友達にすすんで助言をしたり、励ましたりしようとしている。

かべ逆立ち（器械運動：マット運動）

- (1) 壁倒立や補助の行い方を知り、倒立姿勢を保持できるようにする。
- (2) 友達の運動を見たり、補助したりしたときに気付いたことを伝えたりすることができるようにする。
- (3) すずんで仲間の運動を補助したり、運動に取り組んだりする態度を養う。

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①壁倒立や補助の行い方を理解している。 ②倒立姿勢を保持できている。	①友達の運動を見たり、補助したりしたときに気付いたことを伝えている。	①すすんで仲間の運動を補助したり、運動に取り組んだりしている。

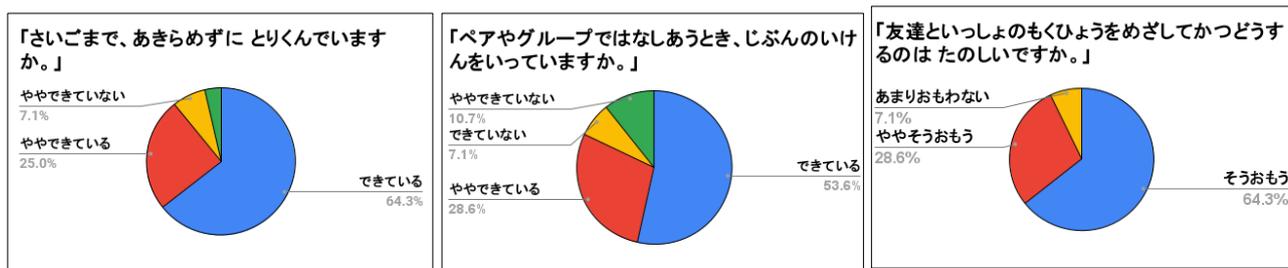
3 単元について

(1) 単元観

長なわは、繰り返し挑戦しようとする意欲と友達と協力しながら体力を高めることができる運動である。本単元では、長なわを初めてむかえ回しで跳ぶことを経験していく。なわの回し方が変わったことによって、なわに入るタイミングなどの変化を理解しながらリズムよく跳ぶ力を育成したい。また、変化により困っている友達に対して、全体で確認したポイントを伝えたり、励ましたりさせたい。

マット運動は、回転系と巧技系の技から構成されており、自己の体重を腕で支えたり、バランスをとりながら静止したり、体を回転させたり、逆さになったりする運動である。本時では、かべ逆立ちの行い方を知るとともに、壁倒立などの基本的な技を身に付けさせたい。

(2) 児童観



本学級では、体を動かして運動することが好きな児童が多い。チームや列で友達と競い合ったり、クラスで記録に挑戦したりすることに意欲的である。低学年の頃から郵便屋さんや0の字跳びなどを経験してきているが、1学期に行った長なわのかぶり回し跳びでは、なわに対する恐怖心から、安定して連続跳びができない児童が数人いた。しかし、クラス全体としては、8の字跳びを連続で跳ぶ記録が100回を超えるチームもある。

折り返しの運動を中心に逆さ感覚や腕支持感覚などの運動感覚づくりを授業に取り入れたが、かべ逆立ちの下位教材であるだんごむし逆立ちやお手伝い逆立ちにおいて、逆さになることに抵抗感を示す児童や腕支持感覚が十分ではない児童が数人いる。また、倒立姿勢が安定せず、横に倒れてしまう児童もいる。しかし、最後まであきらめることなく運動をやりきろうとする姿勢が見られる。

4 単元の指導計画

長なわ跳び むかえ回し (体づくり運動：多様な動きをつくる運動)

回	目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
1～3	むかえ回し跳びのなわの回し方や跳ぶタイミングを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> むかえ回し跳びの方法を知り、0の字跳びに取り組む。 0の字連続跳びに取り組む。 	【態度】友達にすすんで助言をしたり、励ましたりしようとしている。(観察)
4・5	むかえ回し跳びの行い方を知り、タイミングよくなわに入って跳ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 8の字連続跳びに取り組む。 クラス新記録を目指す。 	【知・技】むかえ回し跳びの行い方を知り、タイミングよくなわに入ることができている。(観察・ノート) 【思・判・表】動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、考えたり、見付けたりしたことを友達に伝えている。(観察)
6～8 第6回目 本時	むかえ回し跳びをグループで連続で跳ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 8の字連続跳びに取り組む。 クラス新記録を目指す。 	【知・技】なわをリズムよく連続で跳ぶことができている。(観察・ノート)

かべ逆立ち (器械運動：マット運動)

回	目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
1	仲間と協力して倒立姿勢になる。	ひっぱり逆立ちに取り組む。	【態度】すすんで仲間の運動を補助したり、運動に取り組んだりしている。(観察)
2～4 第4回目 本時	手を着いた姿勢や立った姿勢から壁倒立を	手を着いた姿勢からのかべ逆立ちに取り組む。	【知・技】壁倒立や補助の行い方を理解している。(観察) 【思・判・表】友達の運動を見たり、補助したり

5・6	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の運動について、気付いたことを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・立った姿勢からのかべ逆立ちに取り組む。 	<p>したときに気付いたことを伝えている。</p> <p>(観察)</p>
7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・倒立状態を安定した姿勢で保持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・逆立ちの時間を伸ばして取り組む。 	<p>【知・技】倒立姿勢を保持できている。</p> <p>(観察・ノート)</p>

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

一つの教材に長い期間触れられる授業設計

20分～25分を1まとまりとして、1時間に2教材を扱う授業スタイルを基本としている。例えば4時間単元では、45分×4単位時間よりも、20～25分×8回の指導を実施した方が、児童が長期的に教材に触れることができる。特に運動技能下位の児童ほど技能の習得には時間がかかるので、長期的に教材に触れられるのは効果的だと考える。

さらに言えば、体も大きくなってきた児童もいる中で1時間全て壁倒立に取り組むことは、負荷が大きい。運動を変えることで一つ一つの運動に集中し、意欲をもって取り組むことができ、技能の習得につながると考える。

運動のポイントの共通理解

前後半のどちらの教材であっても、気付いたことの伝え合いが活発に行われるように、運動のポイントを全体で共有する。長なわ跳びでは、「なわを回すときは、連続でみんなが跳べるように、一定のリズムでゆっくり大きく回す」「なわに入るときは、顔を通り過ぎたら入る」ということ、かべ逆立ちでは、「壁から手のひら一つ分離した位置に手を着く」「肘を伸ばして体を支える」「マットを見続ける」ということを単元前半で確認しておく。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

スモールステップを意識した単元計画

単元全体を通して、小さな目標を繰り返し達成していくように課題を設定していく。基本的に、クラス全体が共通の課題を解決するようしており、課題のレベルは技能下位の児童に合わせている。児童一人一人が「分かった・できた」を繰り返し経験することは、学習意欲や挑戦意欲の向上につながると考える。

長なわ跳びは、成功と失敗が結果として明確に表れる運動である。加えて、なわに引っかかってしまうことや速く回るなわで恐怖心を抱いてしまうこともある。そこで、児童が「できそう」だと感じる運動から経験させるとともに、目標達成までの道のりを緩やかに設定した単元計画にする。

また、共通課題にすることで、課題解決のポイントを全体で共有することができる。そして、課題解決のポイントを共有できると、児童が気付いたり考えたりしたことを伝え合いやすくなる。

かべ逆立ちは、補助ありの逆立ちから行い、立位から逆位という急激な姿勢変化による恐怖心を軽減させるため、手を着いた姿勢からのかべ逆立ちへと進んでいく。お手伝いありでも20秒、30秒と、逆立ちの時間を延ばすようにさせる。

20分	<p>○かべ逆立ちの場の準備をする。</p> <p>○手を着いた位置からのかべ逆立ちを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ではできない友達の補助をする。 <p>C：せーの。（振り上げ足をつかまえる）。</p> <p>○今日初めてできたことがあればクラス全体の前で発表会を行う。</p> <p>T：今日初めてできたことがある人。</p> <p>C：補助ありだけど、初めてできた。</p> <p>C：補助なしでできるようになった。</p> <p>○片付けをする。</p>	<p>◎運動のポイントについて、全体で確認する。</p> <p>◎必要に応じて、目玉カードを配り、手と手の間を見ることを意識させる。</p> <p>◎倒立姿勢を10秒間保持できた児童から帽子の色を変えさせ、見取りに生かす。</p> <p>◎運動を見たり、補助したりしている児童には、気付いたことを運動者に伝えるよう促す。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◆友達の運動を見たり、補助したりしたときに気付いたことを伝えることができている。（観察）</p>
3分	<p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育ノートに振り返りを書く。 ・振り返りを発表する。 	<p>◎分かった・できた・一緒に頑張れたことを中心にノートに書かせる。</p> <p>◎全体で共有すべき話題については、発表者に問い返したり、全体に投げかけたりする。</p>

7 研究協議・指導講評

【成果】

- 学び合いの場を大事にしていた。
- 2年間の学級経営の蓄積を感じる授業であった。
- 相互の声掛けの温かさが素晴らしかった。
- 45分間の授業の中で児童の成長が見られた。

【課題】

- △縄を回している児童の運動量の確保を、もう少しするべきであった。
- △短なわの長さが、やや長い児童がいた。
- △逆立ちの姿勢の保持は、美しさと秒数のどちらを求めていけばよかったのかが分からなかった。

【指導・講評】

講師 筑波大学附属小学校 教諭 平川 譲 先生

- ・課題に向かっていない児童はいなかった。主題に対しては100点ではないか。
 - ・壁逆立ちへの立位から勢いをつけて行うのは少し早い段階の児童が多く見られた。鉄棒の回転補助軸を使って、回転運動（＝勢いよく頭を落とし込む動き）ができることが目安となる。
 - ・体づくり運動を通して、次のような運動感覚を養うとよい。
- 技能として手足の協調、片足で跳ぶ、両足で踏み切って跳ぶ、水に潜る・浮く、ボールの投補

第2学年 体育科学習指導案

日 時：令和7年1月22日（水）

対 象：第2学年3組29名

場 所：体育館

授業者：教諭 遠藤 峻介

1 単元名

体づくりの運動遊び（体ほぐしの運動遊び：動物歩き）

器械・器具を使つての運動遊び（跳び箱を使った運動遊び：馬跳び）

2 単元の目標と評価規準

体づくりの運動遊び（体ほぐしの運動遊び：動物歩き）

- (1) 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知るとともに、体のバランスをとる動き、体を移動する動きができるようにする。
- (2) 多様な動きをつくる運動遊びの運動のポイントや行い方について、考えたり、見付けたりしたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) 多様な動きをつくる運動遊びにすすんで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、場の安全に気を付けて運動したりすることができるようにする。

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①体のバランスをとったり、移動したり、して動物歩きをすることができる。	①動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、考えたり、見付けたりしたことを友達に伝えている。	①動物歩きにすすんで取り組むことができる。 ②友達にすすんで助言をしたり、励ましたりしようとしている。

器械・器具を使つての運動遊び（跳び箱を使った運動遊び：馬跳び）

- (1) 自分にあつた高さの馬に手を着いて跳び越すことができるようにする。
- (2) 馬跳びの跳びこし方を工夫したり、友達の運動を見て気付いたことを伝えたりすることができるようにする。
- (3) 馬跳びにすすんで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、場の安全に気を付けて運動したりできるようにする。

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①馬の作り方や馬跳びの行い方を理解している。 ②自分にあつた高さの馬を選び、馬を跳んで遊ぶことができる。	①友達のよい動きを見付けたり考えたりしたことを友達に伝えている。	①馬跳びの跳び越しにすすんで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、だれとでもなかよく運動をしようとしている。 ③馬が倒れないか、友達にぶつからないかなどの安全に気を付けようとする。

3 単元について

(1) 単元観

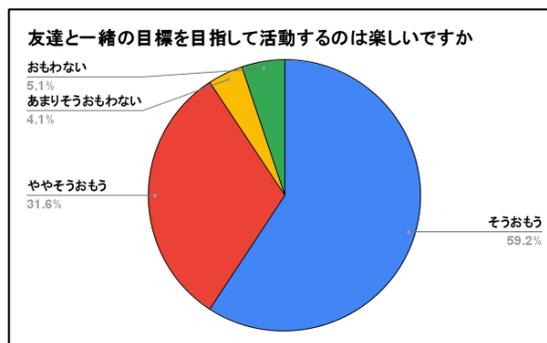
動物歩き（クマさん走り（手足走り）やうさぎ跳び、あざらし、クモ歩き）は、「逆さの感覚」「腕支持感覚」「体の締め感覚」「体の投げ出し感覚」「重心移動の感覚」を高めるのに効果的な運動である。短い時間で繰り返し行うことで、低学年のうちに確かな感覚を身に付けさせたい。また、運動のポイントや行い方をアドバイスし合ったり、応援したりすることで、「友達と一緒に頑張ったらできた！」という達成感を味わわせたい。

馬跳びは、踏み切りや支持などにより、馬を越す運動遊びである。楽しく行うとともに、スモールステップで運動することで基本的な動きを身に付けさせ、跳び箱運動につなげられるようにしたい。また、「できた」ことが明確に分かる運動なので、自分にあった高さに挑戦させることで「できた」達成感を味わわせたい。

(2) 児童観

本学級では、体を動かすことに対して興味・関心が高い児童が多い。また、友達と協力しながら活動することを楽しさを感じる児童も多く、友達同士でポイントを伝え合いながら課題に取り組むことができる。

基本的な運動能力が発達途中にあり、1学期にも行っている折り返しの運動では、手足走りやうさぎ跳びにおいて、動きに慣れていない児童も多い。そのため、折り返しの運動を繰り返し行い、逆さ感覚や腕支持感覚を身に付けていく必要がある。体の投げ出し感覚に恐怖心を抱く児童も多く、折り返しの運動を通して、恐怖心を克服できるようにさせたい。



4 単元の指導計画

体づくりの運動遊び（体ほぐしの運動遊び：動物歩き）

回	目標	学習活動	評価規準（評価方法）
1・2	動物歩きのポイントを理解し、体のバランスをとったり、移動したりして、動物歩きができる。	・様々な動物歩き（クマさん走り（手足走り）やうさぎ跳び、あざらし、クモ）の折り返し運動に取り組む。	【知・技】体のバランスをとったり、移動したりして、動物歩きをすることができる。（観察） 【態度】動物歩きにすすんで取り組むことができる。（観察）
3～6 第4回目 本時	どうしたら自己や仲間の動きがよりよくなるか考える。	・自己や仲間の課題を見付けたり、伝えたりする。	【思・判・表】動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、考えたり、見付けたりしたことを友達に伝えている。（観察・ノート） 【態度】友達にすすんで助言をしたり、励ましたりしようとしている。（観察）

器械・器具を使つての運動遊び（跳び箱を使った運動遊び：馬跳び）

回	目標	学習活動	評価規準（評価方法）
1	馬の作り方や馬跳びの行い方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 馬の作り方を知る。 膝をついた馬（1点の馬）からスタートし、両手両足を広げて付いた馬（2点の馬）の跳び越しに取り組む。 	<p>【知・技】馬の作り方や馬跳びの行い方を理解している。（観察）</p> <p>【態度】馬が倒れないか、友達にぶつからないかなどの安全に気を付けている。（観察）</p>
2	足首をつかんだ馬の跳び越しができる。	<ul style="list-style-type: none"> 足首をつかんだ馬（3点の馬）を跳び越す運動に取り組む。 	<p>【知・技】馬の作り方や馬跳びの行い方を理解している。（観察）</p> <p>【態度】馬跳びの跳び越しにすすんで取り組もうとしている。（観察）</p>
3・4 第4回目 本時	自分の高さにあった高さの馬を選び、馬を選んで跳ぶことができる。 友達のよい動きを見ついたり、考えたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> 2人組で各自に合った高さの馬を跳びこす運動遊びに取り組む。 グループで各自に合った高さの馬を連続で跳びこす運動遊びに取り組む。 	<p>【知・技】自分にあつた高さの馬を選び、馬を跳んで遊ぶことができる。（観察）</p> <p>【思・判・表】友達のよい動きを見付けたり考えたりしたことを友達に伝えている。（観察・ノート）</p> <p>【態度】順番やきまりを守り、だれとでもなかよく運動をしようとしている。（観察）</p>
5・6	膝で腕を支持する馬の跳び越しができる。 友達のよい動きを見付けたり、考えたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> 膝で腕を支持する馬（4点の馬）を跳びこす運動に取り組む。 グループで各自に合った高さの馬を跳びこす運動遊びに取り組む。 	<p>【知・技】馬の作り方や馬跳びの行い方を理解しているとともに、自分に合った高さの馬を選び、馬を跳んで遊ぶことができる。（観察）</p> <p>【思・判・表】友達のよい動きを見付けたり考えたりしたことを友達に伝えている。（観察・ノート）</p>

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

一つの教材に長い期間触れられる授業計画

20分～25分を一まとまりとして、1時間に2教材を扱う授業スタイルを基本としている。例えば4時間単元では、45分×4単元時間よりも、20分～25分×8回の指導を実施した方が、児童が長期的に教材に触れることができる。特に運動技能が下位の児童ほど技能の習得には時間がかかるので、長期的に触れられるのは効果的だと考える。また、技能の個人差は大きいので、運動技能上位の児童に飽きが出ないように、運動に競争などのゲームを取り入れたり、運動技能下位の児童に手本を見せたり、教えたりし意欲向上につながると考える。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

スモールステップを意識した単元計画

単元計画を通して、小さな目標を繰り返し達成していくように課題を設定していく。基本的に、クラ

ス全体が共通の課題を解決するようにする。児童一人一人が「できた！」を繰り返し経験することは、学習意欲や挑戦意欲の向上につながると考える。馬跳びは、低い姿勢から高い姿勢へとレベルを上げ恐怖心を徐々に減らしていくようにする。①膝をついた馬（1点の馬）②両手両足を広げて付いた馬（2点の馬）③足首をつかんだ馬（3点の馬）④膝で腕を支持する馬（4点の馬）である。

主運動につながる準備運動

音楽を使って楽しく準備運動を行い、平衡能力を獲得するとともに身体のみならず、脳と心に刺激を与えるトレーニングを行うことで、運動能力の向上を図る。音楽がかかると自然と体が動き出し、ウォーミングアップができることを目指す。また、単元や学習内容によって動きを変えたり、付け足したりすることで、主運動に対して効果的になるように工夫する。前半に行う動物歩きでは、逆さ感覚や腕支持感覚を身に付けさせ、体の投げ出し感覚に恐怖心を無くしていくことにもなり、馬跳びに直接関係する運動につながると考える。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

学び合いを活発化させるための共通した学習課題

共通の学習課題を設定することにより、①動きのポイントを共有する②一緒に運動する友達の動きのよさや練習の工夫などを引き出す③アドバイスや励ましの言葉を掛ける④目標の達成を一緒に喜び合うといった授業の流れが作りやすくなる。そして、みんなが「よし、自分もやってみよう」「また頑張るぞ」という気持ちになり、学び合いの活性化につながると考える。

6 本時の展開 体ほぐしの運動遊び：動物歩き 4/6回
跳び箱を使った運動遊び：馬跳び 4/6回

(1) ねらい

- ・動きを身に付けるための運動のポイントや行い方について、考えたり、見付けたりしたことを友達に伝える。
- ・馬の作り方や馬跳びの行い方を理解しているとともに、自分にあった高さの馬を選び、馬を跳んで遊ぶことができる。

(2) 展開

	○学習活動 ・具体的な学習活動 T：教師の発問 C：予想される児童の反応	◎指導上の留意点 ◆評価 【 】評価の観点()評価方法
7分	○準備運動 ○本時の学習内容を確認する。	◎学習の流れを確認し、見通しを持たせる。
13分	○動物歩きに取り組む。 ・ダッシュ、スキップ、くま歩き、カエル跳びで折り返しの運動を行う。 ○運動のポイントを発表する。 C：手のひらを地面につける。 C：腰が高く上がっている。 ○カエル跳びの折り返し運動で記録を行う。	◎運動のポイントについて、全体で確認する。 ◎手のひら全体を床につけて体を支えることを意識させる。 ◎友達にアドバイスや励ましの言葉を掛けるよう促す。 【思考・判断・表現】 ◆動きを身に付けるための運動のポイ

	<ul style="list-style-type: none"> ・何回でゴールまで行けたかにチャレンジする。できるだけ少ない回数でゴールを目指す。 	<p>ントや行い方について、考えたり、見付けたりしたことを友達に伝えている。(観察・ノート)</p>
18分	<p>○馬跳びの場の準備をする。</p> <p>○馬跳びを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両手両足を広げて付いた馬(2点の馬)か、足首をつかんだ馬(3点の馬)を跳びこす運動に取り組む。 <p>○動きのポイントを発表する。</p> <p>T: スムーズに馬跳びができるポイントはどこかな。</p> <p>C: 両足でジャンプする。</p> <p>C: 馬の奥で手をつく。</p> <p>C: 両手で馬をしっかり押す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続とびにチャレンジする。 <p>30秒間で何回跳べたか記録する。</p>	<p>◎運動のポイントについて、全体で確認する。</p> <p>◎足首をつかんだ馬(3点の馬)ができた児童から帽子の色を変えさせ、見取りに生かす。</p> <p>◎友達にアドバイスや励ましの言葉を掛けるよう促す。</p> <p>◎2の馬に恐怖心がある児童には1点の馬に取り組むように促す。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>◆自分に合った高さの馬を選び、馬を跳んで遊ぶことができる。(観察・ノート)</p>
7分	<p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育ノートに振り返りを書く。 ・振り返りを発表する。 <p>○片付けをする。</p>	<p>◎分かった・できた・一緒に頑張れたことを中心にノートに書かせる。</p>

7 研究協議・指導講評

【成果】

- スモールステップで馬跳びを自分に合ったレベルを選択させたことにより、跳び箱を跳べるようになった児童が増えた。
- 毎回の振り返りを行うことで、児童自身が成長を実感できた。

【課題】

- △技能下位の児童に対して、もっと積極的に関わる必要があった。
- △赤白帽子を変える基準が曖昧だった。
- △安全面で、マットの使用法をもっと工夫する必要があった。

【指導・講評】

講師 筑波大学附属小学校 教諭 平川 譲 先生

- ・できない子に対しては、教師が適切にサポートし、評価してあげる必要がある。
- ・児童間の相互作用を促すことが必要である。例えば、馬跳びの際に「背中を押されているか」を伝えるなど、仲間同士が意識し合えるような声掛けをする。
- ・長すぎる振り返りは運動量を減らす可能性があるなので、発表する児童を絞る、振り返りの時間を短縮するなどの工夫が必要である。

第6学年 体育科学習指導案

日 時：令和7年7月2日（水）

対 象：第6学年2組

場 所：体育館

授業者：教諭 後藤 沙衣子

- 1 単元名 長なわ跳び ダブルダッチ（体づくり運動：体の動きを高める運動）
 キャッチバレーボール（ボール運動：ネット型）

2 単元の目標と評価規準

長なわ跳び ダブルダッチ（体づくり運動：体の動きを高める運動）

- (1) 体力を高める運動のねらいに合った動きができる。
- (2) 体力の高め方を考え、その行い方を工夫している。また、ねらいをもってそれにふさわしい運動を工夫している。
- (3) 自分の体に関心をもち、体力を高める運動にすすんで取り組もうとする。また、互いに協力し、安全に気を付けて運動しようとする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①動きの方向を早く切り替えて、素早く動くことができる。 ②長なわ跳びで、タイミングよく跳んだり、なわを回したりすることができる。	①運動の中で、自分や仲間の体の動き方のよさに気付き、さらに動き方を工夫している。 ②リズム、タイミング、フォームなどの視点から、自分や仲間の動きのポイントを見付けている。	①巧みな動きを高める運動の学習に興味をもち、安全に学習を進めていくためのきまりを守ろうとする。 ②リズムを取る声や、自分の動作などで教え合い、励まし合って運動しようとする。

キャッチバレーボール（ボール運動：ネット型）

- (1) キャッチバレーボールの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームができるようにする。
- (2) キャッチバレーボールのルールを工夫したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすることができるようにする。
- (3) キャッチバレーボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①自分の力に応じたネット型ゲームの行い方について言ったり書いたりしている。 ②攻撃を行うためのボール操作の技能を身に付け、簡易化されたゲームをすることができる。 ③チームの作戦に基づいたボールを持たないときの動き等によって、簡易化されたゲームをすることができる。	①誰もが楽しくゲームに参加できるようなルールを選んでいる。 ②自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ③自己や仲間の課題解決のために考えたことを他者に伝えている。	①運動に積極的に取り組み、ルールやマナーを守り助け合って運動しようとしている。 ②勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたりしようとしている。 ③場や用具の安全に気を付けている。

3 単元について

(1) 単元観

長なわ跳び ダブルダッチ (体づくり運動：体の動きを高める運動)

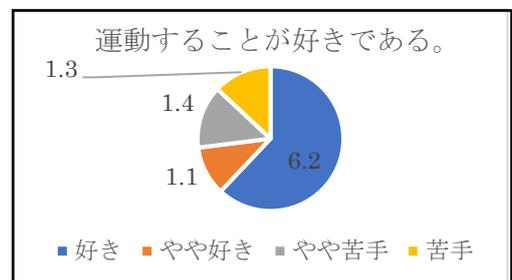
ダブルダッチは、2本の長なわを跳ぶ運動である。児童にとって、2本のなわの動きを捉え、中に入って跳び続けるのは、決して容易ではない。しかし、跳び手から見て奥のなわはかぶり回し、手前のなわは迎え回しとなっていて、既習の運動を組み合わせたものである。そして、奥のなわと手前のなわのどちらにも注目しても、なわに入るタイミングや跳ぶタイミングは変わらない。既習の学習を想起させて、一見難しそうな学習課題も既習事項を活用することで解決する経験を積み、達成感を味わわせたい。

キャッチバレーボール (ボール運動：ネット型)

ボール運動の中でもネット型は、ネットによって味方と相手のコートが分かれており、入り交じることがないという特徴がある。相手との身体接触が生じないので、安心して自分のプレーに集中できる。反面、ボールをはじくという運動でゲームが進むので一瞬しかボールに触れることができず、はじく強さや方向をコントロールするのが難しい。本単元では、相手コートから来たボールを「キャッチ→キャッチ→アタック」の流れで返球することとした。最後のアタック以外はボールを保持できるので、ボール操作の難しさを軽減できる。さらに、ボール操作を容易にした分、誰が、どこに向かってアタックするか等の作戦を実現させやすくなる。チームの特徴に応じた作戦を考えて実行したり、修正したりと、主体的にプレーを工夫する楽しさを味わわせたい。

(2) 児童観

事前のアンケートで、本学級の約7割の児童は、運動することが好きだと回答している。一方で、運動に対する苦手意識のある児童は約3割いる。実際、休み時間になると積極的に校庭で遊ぶ児童と教室内で過ごす児童がいる。体育科の授業では、すすんで体を動かす児童が多いが、単元によっては消極的になってしまう児童がいる。



本学級では、休み時間に長なわやクラスボールを使って遊んでいる児童はほとんどいない。運動の日常化の観点から考えると、第5学年では長なわ跳びを2時間、キャッチバレーボールの学習を5時間行っているにも関わらず、それぞれの運動の楽しさを味わっている児童は少ないだろう。

今回行うダブルダッチは、縄が2本になることで、縄に入ることの難しさや恐怖心を感じる児童が増えると予想される。しかし、これまでに学習したかぶり回し跳びと迎え回し跳びのポイントを生かし、「リズムよく入るポイント」を全員で考えることで、「跳べた」という成功体験や達成感、楽しさを味わわせられると考える。

また、キャッチバレーでは、目線より高いボールをはじく動き (アタック) に難しさを感じる児童が多いと予想される。得点につながる基本的な技能なので、その動きの練習を単元前半に行い、全員が身に付けてからゲームに進めていく。そうすることで、全員に得点のチャンスが生まれ、全員がゲームを楽しめると考える。

以上の手だてをとることで、基本的な技能を身に付けるだけでなく、達成感や運動の楽しさを味わわせ、休み時間にも長なわやボールで遊びたいという、運動好きな児童の増加にもつながると考える。

4 単元の指導計画

長なわ跳び ダブルダッチ (体づくり運動：体の動きを高める運動)

回	目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
1	なわの回し方を理解する。	・ダブルダッチのなわの回し方を知る。	【態度】巧みな動きを高める運動の学習に興味をもち、安全に学習を進めていくためのきまりを守ろうとする。(観察・ノート)
2	なわに入るタイミングを理解する。	・なわを回す練習をして、なめらかになわを回せるようにする。 ・なわに入るタイミングを掴む。	【思・判・表】運動の中で、自分や仲間の体の動き方のよさに気付き、さらに動き方を工夫している。(観察・ノート) 【態度】リズムを取る声や、自分の動作などで教え合い、励まし合って運動しようとする。(観察・ノート)
3・4 第4回目 本時	2本のなわの動きを理解して、タイミングよくなわに入る。	・跳ぶ練習をする。	【知・技】動きの方向を早く切り替えて、素早く動くことができる。(観察) 【思・判・表】リズム、タイミング、フォームなどの視点から、自分や仲間の動きのポイントを見付けている。(観察・ノート)
5-8	タイミングよくなわに入ったり、連続で跳んだりする。	・連続で何回跳べるか個人の目標を決め、回数を記録する。	【知・技】長なわ跳びで、タイミングよく跳んだり、なわを回したりすることができる。(観察)

キャッチバレーボール (ボール運動：ネット型)

回	目標	学習活動	評価規準 (評価方法)
1	ルールや用具に慣れ、キャッチ・パスの基本を理解する。	・基本練習をする。(キャッチ・パス・アタック)	【態度】運動に積極的に取り組み、ルールやマナーを守り助け合って運動しようとしている。(観察・ノート)
2・3	サーブやラリーの基本的な技能を高める。	・サーブとキャッチの練習 ・2対2のミニゲーム	【知・技】攻撃を行うためのボール操作の技能を身に付け、簡易化されたゲームをすることができる。(観察) 【態度】場や用具の安全に気を付けている。(観察・ノート)
4・5	位置取り・パスの仕方を工夫する。	・チームでの連携練習をする。(3人組) ・作戦立てをする。	【知・技】自分の力に応じたネット型ゲームの行い方について言ったり書いたりしている。(観察・ノート) 【思・判・表】自己や仲間の課題解決のために考えたことを他者に伝えている(観察・ノート)
6～7 第7回目 本時	試合形式で技能を高めたり、チームの連携を強化したりする。	・作戦タイムを取り入れたゲームをする。(3対3) ・まとめのゲームをする。	【思・判・表】誰もが楽しくゲームに参加できるようなルールを選んでいる。(観察・ノート) 【態度】勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたりしようとしている。(観察・ノート)
8～10	試合形式で技能を高めたり、チームの連携を強化したりする。	・作戦タイムを取り入れたゲームをする。(3対3) ・まとめのゲームをする。	【知・技】チームの作戦に基づいたボールを持たないときの動き等によって、簡易化されたゲームをすることができる。(観察・ノート) 【思・判・表】自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。(観察・ノート)

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

1つの教材に長い期間触れられる授業設計

1時間2教材の授業スタイルを用いて、同じ教材に長期的に触れられるようにする。運動の頻度と期間を保障することで、児童の運動感覚・技能が身に付きやすくなる。

運動観察場面の設定

ダブルダッチでは、なわに入るタイミングやなわを跳ぶリズムについて、上手なグループを観察させる。その際、既習の運動（かぶり回し跳び、迎え回し跳び等）について想起させ、児童が既習事項を活用して自分たちの課題を解決できるように支援する。

キャッチバレーでは、攻め方や守り方に工夫が見られるチームのプレーを観察させ、児童がチームの特徴に応じた作戦を選んだり考えたりすることができるように支援する。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

スモールステップを意識した単元計画

ダブルダッチでは、まずなわ回しから始め、なわに入る、なわの中で跳ぶといった過程で学習を進めていく。毎時間の学習課題を精選し、焦点化させることで、児童が「できた」という達成感を得やすくする。

キャッチバレーでは、全員が目線より高い位置のボールをはじく動きを身に付けてからゲームに進む。そうすることで、全員に得点のチャンスが生まれ、主体的にゲームに取り組むことができる。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

学び合いを活発化させるための共通した学習課題

毎時間の学習課題を精選し、学級全体の共通教材にする。そうすることで、全員が同じ課題意識で学習を進めることができ、助言や補助などの学び合いを活発化させることができる。

児童同士のお手伝い

体育は言語を介しての関わりだけではなく、友達の体に触れて補助をするなどの関わり合いがある。これは、友達の成長を物理的に実感することができ、共に達成感や喜びを分かちあえる。

長なわ跳びでは、なわに入るタイミングを「今！」と教えてあげたり、背中を押してあげたり、手をつないで一緒に入って跳んだり、全員が赤帽子になった班はほかの班のお手伝いに行かせたりすることで成功体験を得られる児童を一人でも増やしたい。

キャッチバレーボールでは、返球のサイクルに合わせて「1・2・3」の声を掛け合ったり、「前・後ろ」と、ねらう場所を教え合ったりすることを通して一緒に頑張れる機会を増やしたい。

6 本時の展開 ダブルダッチ 4/8回

キャッチバレーボール 7/10回

(1) ねらい

- ・ダブルダッチのなわの動きを捉え、タイミングよくなわに入ることができる。
- ・自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでキャッチバレーボールをすることができる。

(2) 展開

時間	○学習活動 ・具体的な学習活動 T：教師の発問 C：予想される児童の対応	◎指導上の留意点 ◆評価 【 】評価の観点 () 評価方法
導入 2分	<p>○準備運動</p> <p>○本時の内容を確認する。</p> <p>〈共通課題〉</p> <p>ダブルダッチ・・・なわに入って3回跳ぶ。</p> <p>キャッチバレーボール・・・チームの特徴に合った作戦を考える。</p>	<p>◎学習の見通しをもたせる。</p>
展開 ① 10分	<p>○ダブルダッチに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわに入るタイミングを確認する。 ・体育班に分かれて練習する。 ・なわに入って3回跳べたら赤帽子にする。 ・上手な班の動きを観察する。 <p>T:上手に跳ぶには、どのタイミングでなわに入るとよいでしょうか。</p> <p>C:かぶり回し跳びか迎え回し跳びか、どちらか一方のなわだけ見たらいいと思う！</p> <p>C:入ったらすぐに跳んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育班に分かれて練習する。 <p>C:今！今！今！…。</p> <p>C:ゆっくり回して。</p> <p>C:なわが上に来るタイミングで入るよ。</p> <p>〈苦手な児童への手だて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なわに入るタイミングがつかめない児童には、なわに入るタイミングで背中を押したり、手をつないで教師と一緒に入ったりする。 	<p>◎入れるように声を掛けたり、友達が跳べるようにゆっくりなわを回したり、タイミングを教えたりすることも補助だということを伝え、価値付ける。</p> <p>◎全員が赤帽子になった班の児童には、別の班の友達に教えるように声を掛ける。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>◆タイミングよくなわに入り、ダブルダッチのリズムで跳ぶことができている。(観察)</p>
展開 ② 25分	<p>○キャッチバレーボールの場の準備をする。</p> <p>○キャッチバレーボールに取り組む。(1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3対3の練習試合をする。 <p>〈苦手な児童への手だて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまくボールの落下点に入れない児童に対してボールを見続けるよう声掛けしたり、「前、後ろ」などの助言をしたりする。 <p>○作戦タイムを入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合への作戦や、工夫したいことをチームで考える。 <p>T:もっと得点を増やしたり、確実に得点できたりするような作戦を考えましょう。</p> <p>C:空いたスペースにアタックを入れたら得点につながりやすいから、ボールを高く上げてくれたら場所</p>	<p>◎友達の運動を見て、試合中や作戦タイムに声掛けをしている児童を見付け、称賛する。</p> <p>◎作戦タイムでは、得点場面に焦点化して振り返り、どうして得点を取ることができたのか、どうやったら得点できるのか考えるように声掛けする。</p>

	<p>を確認してアタックができそう。</p> <p>C:ボール運びは早くしたほうが相手を揺さぶることができそう。</p> <p>C:相手の間にボールを落とすと取りづらそうだね。</p> <p>○チームで考えた作戦や工夫を生かし、キャッチバレーボールに取り組む。(2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3対3の練習試合をする。 <p>○片付けをする。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>◆得点するためのより良い方法について、友達の運動を見て気付いたことや、自分の運動を振り返って気付いたことを伝えている。(観察・ノート)</p> <p>◎準備/片付けともに、授業に関係のないことは話さない、走らないことを徹底して指導する。</p>
<p>まとめ 8分</p>	<p>○整理運動</p> <p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦の工夫の振り返りと次時のめあてを書く。 ・振り返りを発表する。 	<p>◎けが等がないか確認する。</p> <p>◎分かった・できた・一緒に頑張れたことを中心にノートに書かせる。そのとき、作戦の工夫の振り返りを書くように助言する。</p> <p>◎全体で共有すべき話題については、発表者に問い返したり、全体に投げかけたりする。</p>

7 研究協議・指導講評

【成果】

- 子ども同士の声掛けが、とても温かかった。
- ダブルダッチでは、全員が赤帽子になったグループの児童を、まだ白帽子のいるグループに移動させていた。そのため、クラス全員が赤帽子になっていた。
- 上手な例とできていない例(先生が示す)を比較させることで、視点が定まった。
- 児童の実態に応じた、柔らかいボールを使用していた。

【課題】

- △キャッチバレーボールでの、子ども同士の声掛けが不十分だった。
- △キャッチバレーボールでの、ルールが曖昧な部分があった。

【指導・講評】

講師 筑波大学附属小学校 教諭 平川 譲 先生

- ・学級経営がきちんとできているため、授業準備、片付けがスムーズ。
- ・やさしいゲーム設定にしたのはよい。
- ・運動観察の視点をもっと絞るとよい。
- ・なわ回しの際に、回し手は入ってきてても意識しないことが大事。
- ・キャッチバレーボールでは、人がいない箇所にアタックを打つという作戦がよい。ローテーションはあまりやらず、みんながアタックを打つということを条件にする。

第5学年 体育科学習指導案

日 時：令和7年9月17日（水）

対 象：第5学年1組31名

場 所：体育館

授業者：主幹教諭 吉羽 顕人

1 単元名

関所じゃんけん（体づくり運動：体の動きを高める運動）

さかだちブリッジ（器械運動：マット運動）

2 単元の目標と評価規準

関所じゃんけん（体づくり運動：体の動きを高める運動）

- (1) 体の動きを高める運動のねらいに合った動きができるようにする。
- (2) 体の動きの高め方を考え、その行い方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り、助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を付けて運動したりすることができるようにする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 関所じゃんけんの行い方について、理解している。 ② バランスをとって動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることができる。	① 動きのポイントと自己や仲間の動きを比較し、自己や仲間の課題を見付けている。 ② 観察し合って見付けた運動のポイントや、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	① 運動に積極的に取り組もうとしている。 ② 互いの運動を観察したり、教え合ったりするなど、仲間と協力しようとしている。 ③ 分かったことや課題の解決方法を伝え合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ④ 運動の行い方や用具の使い方などにおいて、周囲の安全に気を配っている。

さかだちブリッジ（器械運動：マット運動）

- (1) さかだちブリッジの行い方を知るとともに、倒立姿勢を経過してブリッジの姿勢を保持できるようにする。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、課題解決のための活動を工夫したり選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り、助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 器械・器具の使い方、場の安全の確保など、マット運動の特性に応じた行い方を理解している。 ② さかだちブリッジの行い方や技のポイント、練習の仕方を理解している。 ③ さかだちブリッジを安定して行うことができる。	① 自己の能力に適した課題を見付けている。 ② 自己の課題解決に向けて、練習方法を工夫したり選んだりしている。 ③ 観察し合って見付けた運動のポイントや、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	① 運動に積極的に取り組もうとしている。 ② 互いの運動を観察したり、教え合ったりするなど、仲間と協力しようとしている。 ③ 分かったことや課題の解決方法を伝え合う際に、仲間の考えや取組を認め

			ようとしている。 ④ 運動の行い方や用具の使い方などにおいて、周囲の安全に気を配っている。
--	--	--	--

3 単元について

(1) 単元観

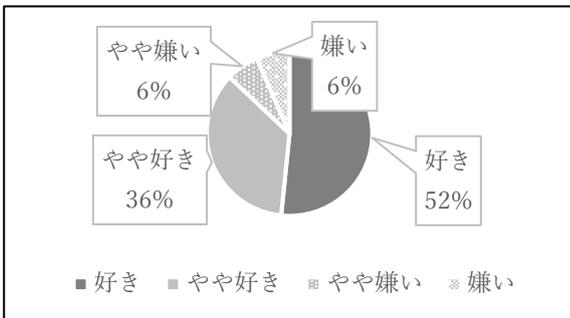
関所じゃんけん（体づくり運動：体の動きを高める運動）

「関所じゃんけん」は、「おりかえし」にじゃんけんや競争などのゲーム的な要素を加えた運動である。10m程度の距離を教師が指定した動きで往復する点では、「おりかえし」と変わらないが、競争の要素を加えることで、素早く正確に自己の体を操作することが求められる。児童は競争を楽しむ中で、逆さ感覚や腕支持感覚などの基礎感覚を育むことができる。夏季の長期休み明けであることも鑑みて、改めて基礎感覚を養い、2学期の様々な運動につなげるための「動ける体づくり」をしていきたい。

さかだちブリッジ（器械運動：マット運動）

マット運動の中でも倒立系の技は、児童にとって達成感の大きなものである。「さかだちブリッジ」は、倒立姿勢をとることや、そこから両足を下ろしてブリッジの姿勢になることなど、非日常の動きを楽しめる教材である。その反面、逆さになるのが怖い児童や、肘を伸ばして腕で体を支えることが苦手な児童にとっては、難しいと感じてしまう教材でもある。本単元では、同じ班の子同士で補助活動を行い、その困難を軽減・解決していく。仲間と助け合って運動することを通して、「さかだちブリッジ」の動きを楽しみ、「分かった！できた！一緒に頑張れた！」という思いをもつことができるように指導していく。

(2) 児童観



事前のアンケートで、本学級の27人(88%)の児童は、運動することが好きだと回答している。全体的には運動好きな児童が多い学級だといえる。領域別に見ると、体づくり運動(折り返し、長なわ跳び等)は20人(65%)、マット運動は9人(29%)の児童が好きだと回答している。このうち、両方の領域が好きで児童4人を重なりとして抜かすと、25人(80%)が本単元での学習について、少なくとも前半または後半の運動に対しては意欲的に取り組めるのではないかと考えられる。

また、体育授業で楽しいと感じるときに関する質問では、「新しい動きや技ができたとき」が一番多く、27人(87%)が回答している。上の質問で運動に対して否定的な回答をした4人も同様の回答である。授業者としては、「お手伝いをして、友達ができるようになったり、上達したりしたとき」の回答が16人(52%)に留まっているのが気になる。協力し合う楽しさをさらに味わわせたいと考えている。

本時の後半に取り組む「さかだちブリッジ」では、児童同士の補助活動(お手伝い)を取り入れ、多くの児童が「できた」という経験を得られるようにする。前半で取り組む「関所じゃんけん」で育んだ基礎感覚は、その下支えになるものである。なお、技能面の実態としては、1学期中に壁倒立(補助ありを含む)は全員が達成している。逆さ感覚、腕支持感覚、体幹のしめ感覚はある程度育まれているといえる。

本単元では、自分や仲間が「できた！」と感じられる場面を増やし、学級全体で力を合わせて次の課題に挑戦していくことを楽しめるような学習の流れを作っていきたい。

4 単元の指導計画

関所じゃんけん（体づくり運動：体の動きを高める運動）

回	目標	学習活動	評価規準（評価方法）
1	関所じゃんけんの行い方を理解する。	・ 試しの競争を行う。	【知・技】関所じゃんけんの行い方について、理解している。（観察） 【態度】運動に積極的に取り組もうとしている。（観察） 【態度】運動の行い方や用具の使い方などにおいて、周囲の安全に気を配っている。（観察）
2	どうしたら自己や仲間の動きがよりよくなるか考える。	・ 自己や仲間の課題を見付けたり、伝えたりする。	【思・判・表】動きのポイントと自己や仲間の動きを比較し、自己や仲間の課題を見付けている。（観察・ノート） 【態度】互いの運動を観察したり、教え合ったりするなど、仲間と協力しようとしている。（観察）
3～4 第3回目 本時	関所じゃんけんを通して、自己や仲間の動きを高める。	・ 自己や仲間の課題の解決方法を考えて伝え合い、解決する。	【知・技】バランスをとって動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることができる。（観察） 【思・判・表】観察し合って見付けた運動のこつや、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。（観察・ノート） 【態度】分かったことや課題の解決方法を伝え合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。（観察）

さかだちブリッジ（器械運動：マット運動）

回	目標	学習活動	評価規準（評価方法）
1	さかだちブリッジの行い方を理解する。	・ 壁を使ったさかだちブリッジやお手伝いに取り組む。	【知・技】器械・器具の使い方、場の安全の確保など、マット運動の特性に応じた行い方を理解している。（観察） 【態度】運動に積極的に取り組もうとしている。（観察）
2～4 第4回目 本時	壁を使ったさかだちブリッジができる。 自己の能力に応じて、お手伝いの方法を選ぶ。	・ 壁を使ったさかだちブリッジをする。 ・ お手伝いをしたり、お手伝いの仕方を選んで運動したりする。	【知・技】さかだちブリッジの行い方や技のポイント、練習の仕方を理解し、壁を使ったさかだちブリッジができていく。（観察） 【思・判・表】自己の能力に適

			した課題を見付けている。 (観察・ノート) 【態度】運動の行いや用具の使い方において、周囲の安全に気を配っている。(観察)
5～6	立位からのさかだちブリッジをするための方法を考える。	・壁を使ったさかだちブリッジの学習を生かして、立位からのさかだちブリッジをするための課題を考える。	【思・判・表】自己の課題解決に向けて、練習方法を工夫したり選んだりしている。 (観察・ノート) 【態度】互いの運動を観察したり、教え合ったりするなど、仲間と協力しようとしている。(観察)
7～8	立位からのさかだちブリッジができる。	・立位からのさかだちブリッジをする。 ・自己や仲間の課題の解決方法を考えて伝え合い、解決する。	【知・技】さかだちブリッジを安定して行うことができる。(観察) 【思・判・表】観察し合って見付けた運動のこつや、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(観察・ノート) 【態度】分かったことや課題の解決方法を伝え合う際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。(観察)

5 研究主題に迫るための手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

一つの教材に長い期間触れられる授業計画

1時間2教材の授業スタイルを用いて、同じ教材に長期的に触れられるようにする。運動の頻度と期間を保障することで、児童の運動感覚・技能が身に付きやすくなる。

運動観察場面の設定

関所じゃんけんでは、なめらかな動きができていた児童を手本として、どのような動きがよりよく高められた動きなのかを全体で共有する。

さかだちブリッジでは、上手な児童を手本として、目線の向きや両足を着ける位置などを全体で確認する。技能面でつまずきが起こりやすいポイントを認知面でフォローすることで、より多くの児童が「できた」と感じられるようにする。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

帽子の色を活用した児童の見取り、評価

さかだちブリッジでは、倒立姿勢を経過した後、ブリッジを10秒程度保持できた児童は赤帽子にするよう指示する。児童は赤帽子にすることを目標にして、主体的に学習に取り組むことができる。また、教師はつまずきのある児童(＝白帽子のままの児童)が見取りやすくなるので、重点的に支援することができるようになる。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

学び合いを活発化させるための共通した学習課題

毎時間の学習課題を精選し、学級全体の共通教材にする。そうすることで、全員が同じ課題意識で学習を進めることができ、助言や補助などの学び合いを活発化させることができる。

児童同士のお手伝い

関所じゃんけんでは、各種目を行う前に短時間の相談時間を設ける。同じ班の仲間で運動のポイントを確認したり、助言し合ったりすることができる。

さかだちブリッジでは、倒立姿勢からブリッジの姿勢になる際の土台や両足を下ろす補助活動（お手伝い）を児童同士で行う。仲間の身体に直接触れて運動を支援することで、動きがなめらかになったり、負荷が軽くなったりといった仲間の成長を感じ取りやすくなる。また、お手伝いがあることで、恐怖感をもちやすい運動であっても安心して取り組むことができ、児童が「できた」という達成感を味わえるようになる。

6 本時の展開 関所じゃんけん 3／4回 さかだちブリッジ 4／8回

(1) ねらい

- ・バランスをとって動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることができる。
- ・壁を使ったさかだちブリッジができる。

(2) 展開

時間	学習活動 T 主な発問 C 予想される児童の反応	○留意点 ☆評価 【 】評価観点 () 評価方法
導入 3分	○本時の内容を確認する。 〈共通課題〉 関所じゃんけん・・・主に着手の運動を、なめらかに行う。 さかだちブリッジ・・・自分に合ったお手伝いの人数でさかだちブリッジをする。	○学習の見通しをもたせる。 ○授業後の振り返りでは、さかだちブリッジに関する記述を書くよう指示しておく。
展開 ③ 15分	○おりかえしの運動に取り組む。 ・ダッシュ ・ケンケン ・両足ジャンプ ・バンザイスキップ ・手足走り ・手押し車 ○関所じゃんけんに取り組む。 各種目の前に短時間の相談時間を設ける。 ・かえる跳び ・うさぎ跳び →関所での運動：かえるの足打ち じゃんけんになったら3回、負けたら5回行う。 ・手足走り ・くも歩き →関所での運動：ブリッジ じゃんけんになったら3秒、負けたら5秒保持。 T:関所じゃんけんですつために、どうしたらよりよい動きになるのでしょうか。 C:かえる跳びが得意だから、大きな動きで進むよ。 C:○○さんは、くも歩きのときにもっと足を前に出すといいと思うよ。 〈苦手な児童への手だて〉 ・手足の協応動作が苦手、動きがぎこちなくなってしまう児童には、太鼓のリズムや口伴奏を聞かせて、リズムカルに運動できるよう支援する。	○準備運動として、負荷の小さな立位の運動から行う。 ○仲間を応援したり励ましたりしている児童を称賛する。 ○前時の終了時の位置に、移動させる。 ○後半の運動につながるように、腕支持感覚やしめ感覚を育める種目を取り入れる。 ○相手の班と人数を合わせるために誰かが2回運動する場合は、毎回同じ児童にならないように声を掛ける。 【知・技】 ☆バランスをとって動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることができている。(観察)
展開 ④ 22分	○水分補給をする。 ○さかだちブリッジの場の準備をする。 ○よじのぼりさかだちを行う。 ○さかだちブリッジの行い方やお手伝いの仕方を確認する。 ○班ごとにさかだちブリッジの練習をする。 ・ブリッジを10秒保持できたら赤帽子にする。	○土台になる児童が倒立姿勢の児童に密着するように確認する。 ○自分が運動をするだけではなく、

	<p>〈苦手な児童への手だて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体が丸まってしまう児童には、目玉カードを活用して、視線がマットに向いたままになるように支援する。 <p>○運動観察をする。</p> <p>例①</p> <p>T:○○さんの視線がどこを向いているか見ておきましょう。</p> <p>C:手と手の間を向いていた。</p> <p>C:視線がマットの方のままだった。</p> <p>例②</p> <p>T:○○さんの両足がマットのどの辺りに着くか見ておきましょう。</p> <p>C:マットの真ん中より壁側だった。</p> <p>C:遠くに足が着くと、ブリッジが崩れてしまいそう。</p> <p>○運動観察で分かったポイントを意識して、再び練習をする。</p> <p>○今日初めて成功した児童の発表会を行う。</p> <p>○片付けをする。</p>	<p>お手伝いもするように伝える。</p> <p>○運動のポイントが見えやすい動きをしている児童、または、もう少しで成功しそうな児童を、本人の了承を得たうえで手本とする。</p> <p>○視線の向きや両足の着く位置、顎の開き方など、学級全体的に必要なと考えられるポイントについて運動観察を行う。</p> <p>【知・技】</p> <p>☆さかだちブリッジの行い方や技のポイント、練習の仕方を理解し、壁を使ったさかだちブリッジができている。(観察)</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○整理運動</p> <p>○学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りと次時のめあてを書く。 ・振り返りを発表する。 	<p>○けが等がないか確認する。</p> <p>○分かった・できた・一緒に頑張れたことを中心にノートに書かせる。</p> <p>○文章ではなく、イラストで表現してもよいこととする。</p> <p>○全体で共有すべき話題については、発表者に問い返したり、全体に投げ掛けたりする。</p>

7 研究協議・指導講評

【成果】

- 折り返しの運動や関所じゃんけんの動きが、さかだちブリッジの動きにつながっていた。
- 態度面、技能面の声掛けについて、タイミングや量が適切だった。
- 1時間2教材の授業スタイルにより、運動が苦手な児童も楽しんで活動できていた。
- 帽子の色の工夫により、見取りやすかった。

【課題】

- △最後まで帽子の色が変わらなかった子がいた。
- △めあてを達成した子がどこまで次の運動に進んでよいか、慎重に考える必要がある。

【指導・講評】

講師 筑波大学附属小学校 教諭 平川 譲 先生

- ・準備体操ではなく、本時のように主運動につながる運動遊びを採用することで、けがもしにくくなる。
- ・授業全体では、運動の積み重ねを感じた。基礎感覚・技能が身に付いていた。
- ・最終的にハンドスプリングにつなげたいのであれば、さかだちブリッジは、台のお手伝いありのままに進めた方がよい。

第5学年1組 学級活動(1)指導案

日 時：令和6年6月26日(水)

対 象：第5学年1組26名

授業者：木村 将

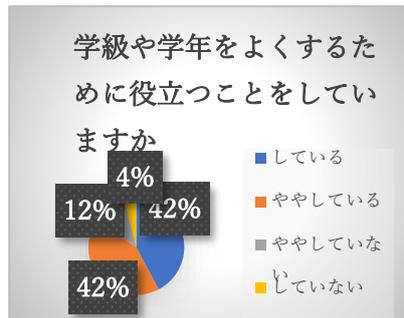
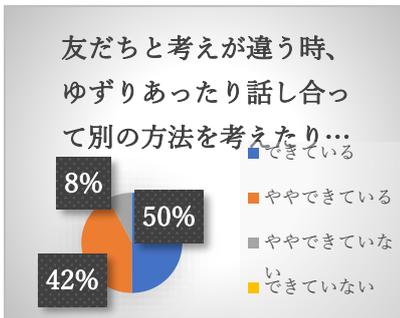
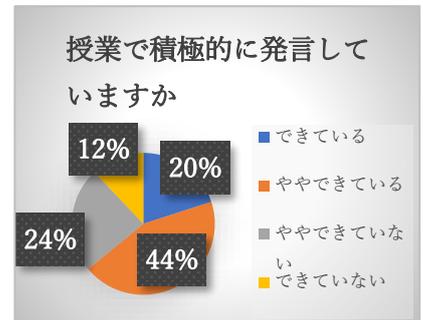
1 議題 「暑さをふっ飛ばそう集会をしよう」

(学級活動(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題について

(1) 児童の実態

5年生進級時に学級編成を行い、3か月が過ぎようとしている。年度当初は、昨年度の学級の友達とばかり関わる姿が多かったが、どの児童も新しい学級や生活に慣れて、多くの友達と関わりをもつようになってきた。児童の実態は以下の通りである。



本学級の児童は、どの教科でも静かに話を聞くことは概ねできているが、内容の理解に関しては十分ではない。また、自分の意見を積極的に相手に伝えようとする意欲の高い児童は多くない。話し合いを進めることについて周囲に任せてしまっていると感じる場面もある。

また、学級や学年をよくするために行動することに課題がある。自分以外の人のために、自分の力を使う経験を増やし、そのことに喜びを感じられるように指導をしていきたい。そのために、司会グループを輪番制で行い、児童が様々な役割を経験できるようにする。昨年度身に付けた力を基にして、話し合いの技能とともに、学級を自治していく力や意欲を伸ばせるように指導を行いたい。

(2) 議題選定の理由

議題箱に集められた提案カードをもとに、司会グループと担任が相談しながら議題を選定している。「集められたカードには、みんなで体を動かす集会がしたい。」「朝、元気がない日が多いから、元気が出る活動をしたい。」等の意見が挙げられた。6月現在、学級において目立った課題が挙がらない状況であるが、朝の元気の無さを課題に感じる児童がいることから、計画委員会において、「暑さに負けずに、みんなで楽しい集会をしたい。」という意見を取り上げた。「暑さをふっ飛ばそう集会をしよう」という議題に決定し、全員の了承を得た。

(3) 学級活動(1)の実態

ア 話し合い活動

昨年度の指導を生かし、必要最低限のオリエンテーションのみを行って1回目の学級会を始めた。1回目の話し合いは、話し合いの進め方や注意点を児童と確認し合いながら、担任が司会グループの役割を担って、進行した。

イ 係活動

4月に係を決定してから、時間を見付けながら活動する係が多い。しかし、互いの関係を作る時期のためか、積極的な活動や創意工夫の見られる活動は多くない。担任として、焦ることなく、見守る姿勢を大切に指導している。

ウ 学級集会活動

第1回の学級会では、担任が司会等を行った。特に、似た意見を合わせたり、学級に必要なことを選んだりする、「まとめる」段階を重視した。

第2回の学級会では、司会グループ6班が担当し、「仲よくしましよ集会をしよう」の話し合いを行った。提案理由は、「クラス替えがあつて、たくさんの人と仲よくできていないから、お互いを知って仲よくなれば、いいクラスに近付けるから。」だった。たくさん意見を「まとめる」決定打が無く、話し合いが停滞したため、担任が助言を行った。「まとめる」ためには「比べる」ことをしっかりやらなくてはならないということに気付いた児童がいたため、学級全体に広めた。当日に向けての準備は、十分と言えなかったため、今後の課題として指導を行う。

3 評価規準と目指す児童の姿

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none">・みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。・合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">・楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	<ul style="list-style-type: none">・楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

4 研究主題に迫る手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

計画委員会の充実

計画委員会の開催時期と回数を適切に設定することで、司会グループが安心して会の運営を行えるように指導を行う。全児童が司会グループを経験するまでは、積極的に助言を行うように心がけ、「分かった！」状態で学級会当日を迎えられるようにする。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

できたことの価値付け 振り返りの充実

話し合い活動や実践活動を振り返る時間を確保することで、めあて・実践・振り返りというサイクルを確立させるようにする。全教科等で共通して行っている※㊦㊧㊨視点での振り返りを繰り返すことにより、自分や学級の話合う技能が向上し、「できた！」が増えたことに気付くことができるようにする。

また、教師が行う終末の助言で、話し合いを進める発言や他の意見を認める発言について触れるようにする。児童の姿や発言に関して具体的に価値付けることで、その後の話し合いに生かせるようにする。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

集会活動での一人一役の実践

実践活動に向け、一人一人が必ず役割を担うことで、「一緒に頑張れた！」という経験を繰り返すことができるようにする。学級の活動のために、自分や友達の力が必要不可欠だということに気付くことで、自信をもって最後まで活動できるようにする。

5 事前の活動

日時	○児童の活動	□指導上の留意点
6/17(月)	○司会グループが議題案から議題を決定する。 ○全員の承諾を得て議題を決定する。 ○司会グループが学級全体にどんな活動をしたいか呼び掛けをする。	□全員が提案理由を理解して、話し合う目的を共有できるようにする。 □これまでの反省から、やることは2つにすると決める。 □必ず自分の考えをもつように伝える。
6/19(水)	○司会グループが学級会シートを作成し、配布する。 ○児童は、自分の考えをワークシートに記入する。	□必ず自分の考えを書かせる。
6/21(金)	○司会グループが学級会シートを確認し、話し合いの見通しをもつ。	□話し合いの論点が何になりそうか予想しながら、話し合いの進め方を指導する。
6/25(火)	○進め方について最終確認をする。	□司会グループの不安をなくすために、話し合いの見通しを確認する。

6 本時の活動

(1) ねらい

提案理由を考慮しながら考えを出し合い、多様な意見を生かして、集会活動の内容や役割を決めることができる。

(2) 指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉 2 司会グループの自己紹介 3 議題と提案理由の確認 4 めあての確認 5 決まっていることの確認 6 先生の話 7 話合い 話し合うこと ①「何をするか」 ②「役割分担」 8 決まったことの確認 9 先生の話 10 振り返り 11 終わりの言葉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【議題】 「暑さをふっとばそう集会をしよう」</p> <p>【提案理由】 朝元気が足りなかったり、暑さでだらけたりすることがあるから、暑さをふっとばす活動をすれば、残り1か月を元気に楽しく過ごせるから。</p> <p>【決まっていること】</p> <p>① 日時：7月 2日（火）1時間目 ② 場所：体育館 ③ 2つ行う</p> </div> <p>○提案理由が話の中心となるように意識付けを行う。 ○司会が困っているときには、助言を行う。</p> <p>○全員が役割を担えるように声を掛ける。</p> <p>○話合い活動において提案理由を意識した発言、学級全体を考えた発言、意欲的に参加していた児童を称賛する。 ○司会グループを労うとともに、事後の活動への意欲付けを行うようにする。 ○今度の活動に向けての見通しを確認する。</p>	<p>【思考・判断・表現】 自分の思いや意見が伝わるように、理由を挙げて説明している。（観察）</p> <p>【態度】 自分とは異なる考えの友達のよさを見付けようとしている。（ワークシート）</p>

7 事後の活動

日時	○児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
6/27 (木) ～ 7/1 (月) 休み時間や 給食時間を 活用	○集会の準備	・活動がスムーズに進められるよう、マジック/画用紙/模造紙などの必要なものを準備しておく。 ・よい活動の姿が見られた児童は全体の前で称賛する。	【知識・技能】 ◎合意形成したことを理解し、自分の役割を果たすことができる。 (観察) 【思考・判断・表現】
7/2 (火) 1時間目	○第3回集会 「暑さをふっ飛ばそう集会」をしよう	・全員が楽しく安全に活動できるように見守る。 ・集会後に準備から集会までの中でよい姿を称賛し、価値付ける。	◎話し合っただけで決めたことに対して自分が何をすればよいのかを考え、協力して準備を進めている。 (観察・振り返りカード)
7/2 (火) 帰りの会	○一連の活動の振り返り	・めあてに基づいて自分の活動を振り返り、自分の役割を果たすことや、友達のよかったところについても認められるように助言する。	【態度】 ◎集会活動を通して、学級での生活をよりよくしようとしている。(観察)

8 研究協議・指導講評

【成果】

- 4年生までの積み上げを感じた。こどもたちの中に学級会の方法論がしっかりあった。
- 一人の考えに対しても意見を重ねている良さを実感した。

【課題】

- △「出し合う」で意見が多く出すと決めるのが難しい。
- △「何をやる」の部分では、時間を短めに設定したほうがよい。

【指導・講評】

講師 帝京大学教職センター兼教育学部初等教育学科 准教授 佐野 匡先生

- ・指導者は、うまくいかない所もワクワクして見てほしい。うまくいかない所とは、こどもたちの成長する所と捉えるとよい。
- ・児童の実態について一歩を踏み出せない、自信のなさというのは東京都全体の課題でもある。その中で合意形成が大切である。
- ・上手に決められることよりも何とか合意形成ができることが大切である。
- ・多数決は早いですが、説得することや譲歩することがない。学級活動で育てたい力が付かなくなってしまう。学級会以外でも、教科で、クラス運営で、多数決やジャンケン以外の方法で決めさせたい。

第1学年 学級活動(1)指導案

日 時：令和6年10月23日（水）

対 象：第1学年2組26名

授業者：矢沢 美嶺

1 議題 「みんななかよしハロウィンパーティーをしよう」

(学級活動(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題について

(1) 児童の実態

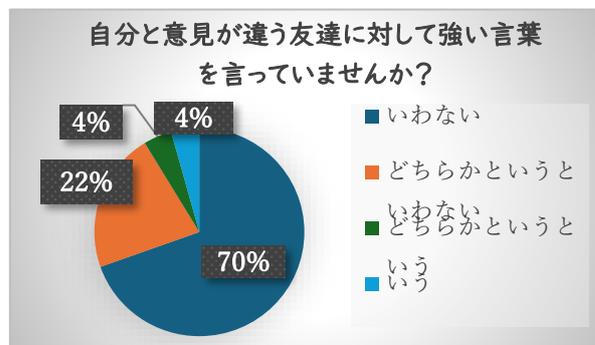
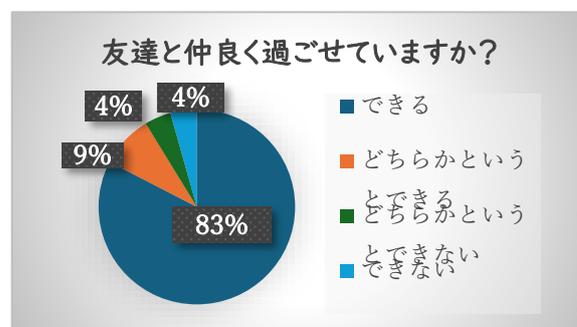
本学級では、就学前からの顔見知りがないため、大きな不安を抱え、入学した児童が約半数いた。また、学級に就学前からの顔見知りの友達がいる児童は、人間関係が固定化している時期もあった。6月以降は、人間関係に変化が見られるようになったり、隣の席同士でコミュニケーションをとったり、休み時間には大勢の友達で一つの遊びをしたりするなど、関わりが増えた。

明るく活発で、自分の意見を教師や友達に伝えることができる児童が多いが、休み時間や授業中に、友達の意見が認められず、トラブルになってしまうことがある。授業中では、友達の意見に対して「同じです。」や「違う意見があります。」などの自分の意見を丁寧な言葉で表すことや、「頑張れ。」や「大丈夫だよ。」などの励ましの声掛けをすることを指導している。しかし、それを受け入れることが難しい児童もいる。

自分とは違った意見や考えに出会い、認め合いながら自分の意見を丁寧な言葉で伝えることで、友達同士がよりよいコミュニケーションをとり、「分かった！できた！一緒に頑張れた！」と全員が思う学級づくりをしていきたい。

(2) 議題選定の理由

9月から、目的と使い方を説明した上で、学級に議題箱を設置している。議題箱に集められた提案カードをもとに、計画委員会と担任が相談しながら議題を選定した。提案カードには、「10月だから、みんなでハロウィンのようなことをしたい。」「楽しいことをして、みんなで仲良くなりたい。」等の意見が挙げられた。そこで、10月のハロウィンの季節と「クラスみんながよりなかよくなりたい。」という思いを合わせて「みんななかよしハロウィンパーティーをしよう」に決定し、全員の了承を得た。



(3) 学級活動(1)の実態

ア 話し合い活動

9月から教師と一緒に児童が学級会の進行をするようになり、4回目の学級会となる。教師の助言を参考にしながら、計画委員会の役割、学級会の進め方を理解しつつある。

イ 係活動

6月に係を決定してから、学級活動の時間を利用して活動をしている。積極的、かつ楽しそうに取り組んでいるが、創意工夫が見られる活動は少ない。担任として、児童の気持ちを大切に考え、活動の幅が広がったり、質が高まったりするような声掛けをしていきたい。

ウ 学級集会活動

第1回～第3回の学級会では、担任が計画委員会を担い、当番決め、なかよし集会等の内容を決めた。これらの話し合いを通して、クラスをよりよくするために「みんなで話し合い、みんなで決めて、みんなで取り組む」ことの大切さを共通理解した。また、一緒に活動に取り組むことは、楽しいと感じることができた。

第4回では、計画委員会が担当し、「Sさんを迎える会をしよう」の話し合いを行った。役割の仕事内容を確認しながら、教師と一緒に話し合いを進めた。また、司会台本をフロアの児童にも見せながら進めることで、計画委員会が行っていること可視化した。その結果、話し合いの進め方や、計画委員会からの声掛けの意味理解、声掛けに応じた対応ができる児童が見られた。

第5回のめあては、「提案理由に合わせて意見を出そう」とし、「お月見のようなことをみんなでしたい。」「2組がもっとなかよくなるため」に立ち返りながら進めることを意識した。

3 評価規準と目指す児童の姿

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none">・みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。・話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">・学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	<ul style="list-style-type: none">・学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

4 研究主題に迫る手だて

(1)「分かった！」を積み重ねるための手だて

計画委員会の充実

司会グループによる学級会に児童が慣れていないため、司会グループと議題や提案理由を練る時間を確保する。加えて、司会台本を活用して当日の流れを確認する時間を確保する。それにより、学級会の流れや仕組みを理解することができ、進行の仕方が「分かった！」と自信をもって臨むことができる。徐々に、円滑な進行ができるようになってくると、その自信が確実なものとなる。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

できたことの価値付け **学級会実践記録の掲示**

「課題の発見→助言→めあて→実践→振り返り」のサイクルを大事にし、「先生の話」でよくできたことの価値付けと課題を伝える。次回の学級会では、その課題が解決できるようなめあてを計画委員会と、事前活動で設定する。前回の課題をどのようにしたら解決できるか教師から助言をし、めあてを決め、クラスにも伝える。全児童が、前回の話合いから定めためあてであることを認識した上で学級会を行うことで、めあてを達成し「できた！」と感じる児童が増えるだろう。

実践記録として、板書の写真、よかった姿を価値付ける児童の写真と教師のコメントを教室に掲示する。それにより、学級会の時に感じる「できた！」に加えて、学級会後もできたことを振り返ることができるようにする。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手立て

「比べ合う」時間の確保 **集会活動での一人一役の実践**

時間内で合意形成を終えるために、「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」の中で「比べ合う」に最も時間をかける。そのために、「出し合う」の段階は事前に行い、おおまかにどんな遊びであるか、朝や帰りの会で共有しておく。時間内に合意形成を達成することで、みんなで決めきれたという「一緒に頑張れた！」の感情につながる。

実践活動に向け、一人一人が必ず役割を担うことで、「一緒に頑張れた！」という経験を繰り返すことができるようにする。学級のために、自分や友達の力が必要不可欠だということに気付くことで、自信をもって最後まで活動できるようにする。

5 事前の活動

日時	○児童の活動	□指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
10/11(金) 給食時	○計画委員会が議題案から議題を選定する。		
10/15(火) 朝の会	○全員の承諾を得て議題を決定する。 ○計画委員会が学級全体にどんな活動をしたいか呼び掛けをする。	□全員が提案理由を理解して、話し合う目的を共有できるようにする。 □活動は二つにすると決める。	【態度】 ◎学級をよりよくするために、見通しをもちながら、自分の考えをもち、取り組もうとしている。(観察)
10/15(火) 帰りの会	○児童は、自分の考えをワークシートに記入する。	□必ず自分の考えを書かせる。	【思考・判断・表現】 ◎目的に合った意見を考え、学級カードに書くことができる。(学級会カード)
10/16(水) 休み時間	○計画委員会が学級会シートを確認し、話合いの見通しをもつ。 ○意見が書かれた短冊を整理する。	□台本や板書計画を見せて共通理解できるように助言する。 □実態を踏まえ、短冊をあらかじめ用意しておく。	【知識・技能】 ◎司会グループの役割、学級会の進行の仕方を理解している。(短冊・観察)
10/23(水) 休み時間	○進め方について最終確認をする。	□計画委員会の不安をなくすために、話合いの見通しを確認する。	

6 本時の活動

(1) ねらい

友達の意見を最後まで聞き、互いの考えを認め合いながら話し合っで決めることができる。

(2) 指導計画

話合いの順序	指導上の留意点 T:教師の指導・助言	目指す児童の姿と評価方法
<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 司会グループの自己紹介</p> <p>3 議題と提案理由の確認</p> <p>4 めあての確認</p> <p>5 決まっていることの確認</p> <p>6 先生の話</p> <p>7 話合い話し合うこと</p> <p>①「やること」</p> <p>②「役割分担」</p> <p>8 決まったことの確認</p>	<p>○めあての発表ができるように、事前に練習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【ごだい】 「みんな なかよしハロウィンパーティーをしよう。」</p> <p>【ていあんりゆう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンのようなことをしたいから。 ・たのしく、みんなとなかよくなりたいたいから。 <p>【めあて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いけんを さいごまで しずかにきこう。 <p>【きまっていること】</p> <p>①10月31日(木)4時間目 ②教室</p> <p>③遊びは、2つまで ④お金をかけない</p> </div> <p>○前回のよかった姿、課題(話の聞き方)、留意点を確認し、今回のめあてを再確認する。</p> <p>○計画委員会が進行に困った時には、方向性を示唆したり助言をしたりし、全員が計画委員会の仕事について理解し、「一緒に頑張れた!」という経験をできるようにする。</p> <p>○計画委員会が役割を担えるように声を掛ける。</p> <p>○事前に短冊を掲示しておき、出されている意見を共通理解できるようにする。そのため、話し合うこと①は「比べ合う」段階から進める。</p> <p>○話合い活動において提案理由を意識した発言、友達に意見を認める態度をとった児童を称賛する。</p> <p>○一つの意見のルールややり方、方法について話合いが盛り上がりすぎてしまった場合は、ルール等は、遊びが決まった後に、遊びの担当が決めることを伝える。</p> <p>○みんなが納得したうえで、合意形成できるようにさせる。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>◎話合いの進め方や意見の発表の仕方、聞き方を理解している。(観察)</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◎互いの考えを認め合いながら話し合っで決めることができる。(観察・学級活動カード)</p>

9 先生の話	○司会グループを称賛する。	
10 振り返り	○めあてを意識する姿、友達の意見を認める姿を称賛する。	
11 おわりの言葉	○今度の活動に向けての見通しを確認する。	

7 事後の活動

日時	○児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
10/24 (木) ～ 10/30 (水) 休み時間 給食時間	○集会の準備 (「役割分担」を決めることができなければ、当日までに朝の会や帰りの会を利用して決める。)	・活動がスムーズに進められるよう、必要なものを準備しておく。 ・よい姿が見られたら、全体の前で称賛する。	【観点】 ◎学級をよりよくするため、役割を意識して活動に取り組むことができる。(観察)
10/31 (木) 4時間目	○第4回集会 「みんな なかよしハロウィンパーティー」をしよう	・楽しく安全に活動できるように助言する。 ・集会までのよい姿を称賛し、価値付ける。	【思考・判断・表現】 ◎合意形成したことに對して、友達と協力をして実践している。(観察)
10/31 (木) 帰りの会	○一連の活動を振り返る。	・自分の役割を果たすことや、友達のよかったところについても認められるように助言する。	【態度】 ◎自他のよさに気付いたり、次の活動に生かそうとしていたりしている。(観察・振り返りカード)

8 研究協議・指導講評

【成果】

- 司会台本の活用、教師による支援で学級会の流れや仕組みを徐々に理解することができた。
- 実践記録を掲示することで、意見をまとめる際のこつを確認でき、「まとめる」ことへつながった。
- 「出し合う」を事前に行うことで、「比べ合う」時間を十分に確保することができた。
- 友達の不安点を、みんなで解決しようとする話し合いをすることができた。

【課題】

- △提案理由に合っている意見を、視覚的に分かるようにするとよい。
- △自分の意見を何回も言う子をどの程度許容するかを考えるとよい。
- △意見を合わせる際、教師と児童、児童同士の中で、共通理解ができていない場面があったので、教師が介入すると良かった。

【指導・講評】

講師 帝京大学教職センター兼教育学部初等教育学科 准教授 佐野 匡 先生

- ・成長課程に応じた児童の姿。低学年の場合は体験的、感情的な意見が多い。教師の介入はあってよし。指導順「聞く」→「言う」意思表示できることが目標。
- ・教師と子、子と子の間での解釈の違いがあった場合は、話し合いでは流してしまっても良い。実践した時に分かる。実感して、修正して学ぶ。
- ・イヤイヤ期のこどもへの向き合い方。聞き続ける、気持ちの代弁、褒める、選択肢で選ぶ等、特別活動で補うことができる。

第1学年2組 学級活動(1)指導案

日 時：令和7年10月7日

対 象：第1学年2組30名

授業者：教諭 小林 麻奈美

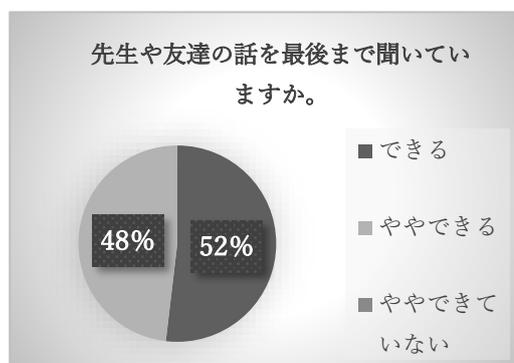
1 議題 「わくわく！あきをたのしむかいをしよう」

(学級活動(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級は、新しい環境に適応するまでに時間を有する児童が多く、1学期末の時点でも登校渋りの傾向のある児童がいた。行事や席替えなど初めての出来事があると、前日より不安感に駆られる児童が、多数見受けられた。1学期末から2学期にかけては、自分たちで声を掛け合って遊ぶ様子が見られている。また、本学級の特徴として、友達の意見や話を大切にする、思いやりのある児童が多い。ただ、その影響で自分の思いを後回しにしてしまう実態も見られる。



第3回の学級会までで、自分の意見をもって発表することが難しい児童が7割程度いた。それに加えて、前述した不安感をもつ児童が多い実態も多いことも踏まえ、何事にもお楽しみ感をもたせることや事前の告知を大切にしてきた。今回も学級会を実施することやその議題、意見を事前に考えておく時間を確保することで、児童に安心感をもたせられるようにする。その一方で、自分の意見に固執したり、積極的に挙手はするものの、内容が伴っていない児童も少数であるが見られたりもする。

(2) 議題選定の理由

7月に「1がっきがんばったね。2がっきもがんばろうね会」の集会を行ったところ、児童から、「2学期もみんなで決めてお楽しみ会をやりたい」、「がんばろうね会以外にもできないかな」という声が挙がった。夏休み明けの2学期への楽しい見通しをもたせたいと考えた。7月の集会直後に、「もっとみんなと仲良くなりたい」「秋をテーマにした集会をしたい」という声が出ていた。2学期に入ると、「秋を楽しみたい」「みんなと仲良くなりたい」という提案が改めてあり、計画委員会と議題を選定、児童全員と相談し、本議題に決定した。

また、近年10月に入っても暑い日が続く年が多く、「秋」を感じにくい年が続いている。児童たちからも、秋を感じられる催し物をしたいという思いからこの議題に決定した。しかし、「秋」という季節について詳しく知らない児童も多いため、生活科や国語科の学習を通して「秋といえば」の知識を身に付けさせて、本議題に臨む。

(3) 学級活動(1)の実態

ア 話し合い活動(学級会)

9月から教師と一緒に児童が学級会の進行をするようになって、2回目の学級会となる。少しずつ自分の意見を持ち発言すること、合意形成の仕方・折り合いのつけ方を学んでいる。また、教師の助言や今までの活動記録を参考にしながら、計画委員会の役割、学級会の進め方を理解しつつある。

イ 係活動

6月に係を決定してから、学級活動の時間を利用して活動をしている。積極的、かつ楽しそうに取り組んでいるが、創意工夫が見られる活動は多くない。担任として、児童の気持ちを大切に考え、活動の幅が広がったり、質が高まったりするような声掛けをしていきたい。

ウ 集会活動

第1回～第3回の学級会では、担任が計画委員会を担っていた。話し合いを通して、自分の意見をもつこと、友達の意見を大切に聞くことが重要であることや、学級をよりよくするために「全員で決めて、全員で取り組むこと」の大切さを共通理解した。特に集会については、自分たちで計画・準備をする過程を経験することで、自己有用感を感じ、「また、みんなで計画したい。」という前向きな思いをもつ児童が多くいた。

第4回から、司会グループ（司会、副司会、黒板）が司会進行を担当し、「はじめまして！ Yくん。いっしょにあそぼう会をしよう。」の話し合いを行った。役割の仕事内容を確認しながら、教師と一緒に話し合いを進めた。また、司会台本をフロアの児童にも見せながら進めることで、司会グループが行っていること可視化した。それにより、話し合いの進め方や、司会グループからの声掛けの意味理解、声掛けに応じた対応ができる児童が見られた。

3 評価規準と目指す児童の姿

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none">みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">学級の生活を楽しくするための課題を見出し、解決するために、話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、助け合って実践している。	<ul style="list-style-type: none">学級における人間関係をよりよくし、見通しをもったり振り返ったりしようとしている。自己の考えをもち、よりよい集団活動のために考えを生かそうとしている。

4 研究主題に迫る手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

計画委員会への指導 板書の視覚化・構造化

今回の計画委員会にとって、初めての司会グループとなるため、司会台本を活用して当日の流れを確認する時間を確保する。また、合意形成等で困ったときのお助け資料を用意し、安心感をもたせる。それにより、学級会の流れや司会進行方法を「分かった！」と自信をもって臨むことができると考える。

板書上で色付きマグネットや、提案理由に色付き下線を引く工夫をすることで、「今、何を話し合っているのか」「提案理由に対応しているのか」が一目で分かるような板書とする。それによって話し合いの視点がずれるのを防ぎ、話し合いに付いていけなくなった児童だけではなく、全児童が視覚的に「分かった！」という思いをもって、話し合いの場となるようにする。また、短冊の分類、整理の方法については適宜教師が助言する。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

できたことの価値付け **実践記録の掲示**

司会グループ、フロアの児童それぞれに、「できたこと」を具体的に伝え、価値付けをし、自分たちで「できた！」という気持ちをもたせる。司会グループを担当する児童には、準備から振り返りまで教師の力を借りながらも、自分たちが中心となって、計画・実施できたことを称賛する。フロアの児童も、自分の意見に理由をつけながら、話し合いの進め方に則って発言できたこと、友達の意見を聞く時のよい態度について具体的に称賛する。

実践記録として、板書の写真、よかった姿を価値付ける児童の写真と教師のコメントを教室に掲示する。2学期以降の実践記録には、司会グループの具体的な頑張り、それに協力するフロアのよりよい姿に着目した記録やコメントをする。それらを振り返ることにより、学級会の時に感じる「できた！」に加えて、学級会後もできたことを振り返ることができるようにする。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

比べ合う時間の確保 **集会活動での一人一役の実践**

学級会で合意形成を図るために、「出し合う」→「比べ合う」→「まとめる」の中で「比べ合う」に最も時間をかける。本学級の今までの学級会では、「比べ合う」「まとめる」に時間を要してしまい、1時間の学級会で決定できなかったことがない。それを受けて、「出し合う」の（学級会ノートの記入、短冊書き、意見の共有）を行っておき、「比べ合う」時間の確保し、合意形成を図る。その結果、みんなで決められたという「一緒に頑張れた！」の実感につながると考える。

実践活動に向け、一人一人が役割を担うことで、「一緒に頑張れた！」という経験を繰り返すことができるようにする。学級のために、自分や友達の力が必要不可欠だということに気付くことで、自信や自己有用感をもって最後まで活動できるようにする。

5 事前の活動

日時	○児童の活動	□指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
9/2(火) 朝の会	○「秋を楽しむ」こと、「もっと仲良くなりたい」を合わせた議題を決定した。		
9/25(木) 朝の会	○計画委員会が議題の確認、提案理由の確認をする。 ○学級全体にどんな活動をしたか、考えておくことを伝える。	□全員が提案理由を理解して、話し合う目的を共有できるようにする。 □時間、場所を考えて、遊びの数を決める。	【態度】 ◎学級生活をより楽しくするために、見通しをもちながら、取り組もうとしている。（観察）
9/30(火) 朝の会 帰りの会	○児童は、自分の考え・理由をワークシートに記入する。 ○計画委員会が学級会カードを確認し、意見が書かれた短冊を整理する。	□自分の考えを書かせる。 □台本や板書計画を見せて共通理解できるように助言する。 □短冊をあらかじめ書き、用意する。	【思考・判断・表現】 ◎目的に合った意見を考え、学級カードに書くことができる。（学級会カード）
10/2(木) 朝の会	【出し合う】 ○短冊を活用しながら、意見を出し合う。		【知識・技能】 ◎司会グループの役割、学級会の進行の仕方を理

	○疑問点を解決する。		解している。(短冊・観察)
10/6(月) 休み時間など	○進め方について最終確認をする。	□計画委員会の不安をなくすために、話合いの見通しを確認する。	【知識・技能】 ◎話合いの進め方や意見の発表の仕方、聞き方を理解している。(観察・発言)

6 本時の活動

(1) ねらい

「みんなで秋を感じたい」という提案理由に沿って話合いをするとともに、話合いの進め方や、互いの考えを認め合いながら集会の内容を考えることができるようにする。

(2) 指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉	○それぞれの役割に対するめあての発表が、できるように事前に練習をする。	
2 司会グループの自己紹介	【ぎだい】 「わくわく！あきをたのしむかいをしよう。」 【ていあんりゆう】 みんなで秋を感じて、楽しく遊びたいから。 【めあて】 話合いの約束を守って、話し合おう。 【きまっていること】 ① 10月23日(金) 3時間目 ② 場所は 教室 ③ 遊びは、三つまで	
3 議題と提案理由の確認		
4 めあての確認		
5 決まっていることの確認		
6 先生の話		
7 話合い 話し合うこと①「やることを決める」		○前回のよかった姿、課題(話の聞き方)を確認し、今回のめあてを再確認する。 ○掲示物や板書を活用しながら、留意点について話す。
8 決まったことの確認	○【出し合う】については、短冊を使って、意見・遊びの内容の共有が事前に済んでいる。そのため【比べ合う】から開始する。 ○友達の見解を聞くときは、話している人の顔を向く、頷くなどの傾聴の仕方を意識させる。 ○司会グループが進行や短冊の整理について困っているときには、話合いの方向性や整理の仕方を助言することで、全員に話合いの進め方を理解させる。	【思考・判断・表現】 ◎互いの考えを認め合いながら、話合いの進め方に沿って、合意形成している。(観察・発言)
9 振り返り	○合意形成できるように、今までに知った技を思い出すように助言する。(合体の技、いいとこどりの技など) ○ルールや方法について決定できない場合には、ルール等は、担当が決めることを伝える。	

10 先生の話	○司会グループや、話し合い活動において提案理由を意識した発言、友達の見解を踏まえた発言をしたり、友達の見解を認める態度をとったりした児童を称賛する。	
11 おわりの言葉	○今度の活動に向けての見直しを確認する。	

7 事後の活動

日時	○児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
10/9(木) 朝の会	○話し合うこと② 役割分担について話し合う。	・どんな担当が必要なのか話し合わせる。 ・全員が役割を全うすることの大切さを意識させる。	【知識・技能】 ◎話し合いの進め方や意見の発表の仕方、聞き方を理解している。 (観察)
10/10(金)～ 10/22(水) 休み時間や 給食時間	○集会の準備	・マジック/画用紙/模造紙などの必要なものを準備しておく。 ・よい活動の姿が見られた児童は全体の前で称賛する。	【態度】 ◎学級生活をより楽しくするため、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。(観察)
10/23 (木) 3時間目	○集会の開催 「わくわく！あきをたのしむかい」	・全員が楽しく安全に活動できるように助言する。 ・よい姿を称賛し、価値付ける。	【思考・判断・表現】 ◎合意形成したことに対して、友達と仲よく助け合って実践している。(観察)
10/23(木) 帰りの会	○一連の活動を振り返る。	・自分の活動を振り返り、自分の役割を果たすことや、友達のおかげだったところを認められるように助言する。	【態度】 ◎自他のよさに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。(学級会カード・発言)

8 研究協議・指導講評

【成果】

- 意見の言い方、話の聞き方、質問の仕方などの話し合いの基本的な形が身に付いている。
- 司会グループへの事前指導によって、円滑に話し合いを進めようとする姿が見られた。
- 板書が整理してあり、一目で何をしているかが分かり、視覚的に良かった。

【課題】

- △1年生は経験が不足しているため、話し合いを短くして、体験をたくさんさせることが良いのではないか。
- △意見を言わない子に対しても、実体験を通して意見をもたせる。
- △意見がたくさん出たときには、事前に選択肢を絞るなどの準備が必要。(グルーピング)

【指導・講評】

講師 帝京大学教職センター兼教育学部初等教育学科 教授 佐野 匡 先生

- ・低学年の話し合いは「出し合う」活動が重要。そのためにも、短い話し合いと実際に体験して課題を見付けるという活動が大切。
- ・他教科の既習事項を基に学級会も進めていく。意見のグルーピングは、中学年以降の社会と理科で学習するため、低学年では、教師と共に一緒にしていくことも必要。

第6学年3組 学級活動(1)指導案

日 時：令和7年10月14日

対 象：第6学年3組27名

授業者：主任教諭 永幡 知晃

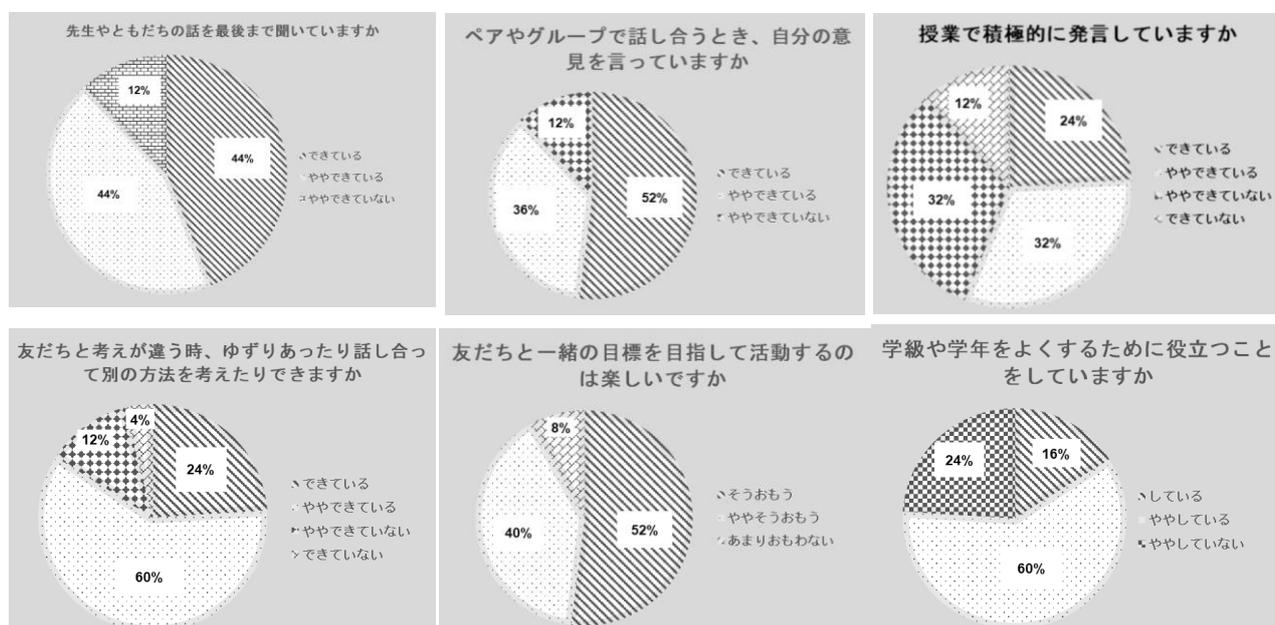
1 議題 「とうぶ移動教室、思い出を振り返ろう会をしよう」

(学級活動(1) ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級は6年生進級時に、学級編成を行っている。1学期当初は、仲のよい友達と関わるが多かった。しかし、1学期終わりにかけて係活動や学級遊び、学校行事を通して、男女仲よく協力して取り組む児童が増えている。児童の実態は以下の通りである。



本学級の児童は、どの学習においても最後まで人の話を聞こうとする姿勢は概ねできている。また、ペアやグループでの話し合いでは、自分の意見を友達に伝えたり、友達と考えが違った時には、別の方法を一緒に模索しようとしたりする姿が見られる。しかし、授業中で全体の前で、積極的に発言する児童は少なく、人に任せてしまう傾向のある児童が多い。また、係活動や委員会活動等でも、意欲的な児童に仕事を任せてしまう姿が見られる。

友達と一緒に目標を目指して活動することは楽しい、と感じる児童が多いという結果が見られた。そこで、友達と協力するよさを実感させる経験や、児童に自分自身の力で何かをやり遂げる経験を増やす。その結果から児童が喜びを感じられるように指導をしていきたい。

(2) 議題選定の理由

議題箱に集められた提案カードをもとに、計画委員会と担任と提案者が相談しながら議題を選定している。「季節を感じる会をしよう」「3組オリジナルキャラクターをつくろう」等の意見が挙げられた。10月の提案ということもあり、小学校生活最後の宿泊行事「とうぶ移動教室」後のため、計画委員会から「みんなと、とうぶ移動教室の思い出を共有したい」「さらに仲を深めていきたい」という意見が挙げられた。そこで「とうぶ移動教室、思い出を振り返ろう会をしよう」という議題に決定し、全員の了承を得て、本議題を設定した。

(3) 学級活動(1)の実態

ア 話し合い活動(学級会)

映像資料を活用し、進め方や司会グループの役割の確認を行って1回目の学級会を始めた。

【これまでの学級会の記録】

	議題	・教師の助言
第1回 4月25日	「一年間よろしくお 願いします」 パーティーをしよう	・質問に応えるために、「実際にやってみる」、という発想がよかった。 ・仲よきの基準がみんなに伝わらず、話し合いが進まないところもあったので、次回は、詳しく伝えるとよい。
第2回 5月30日	運動会頑張ったね会 をしよう	・提案者の思いを汲み取りながら話し合いを進めようとしている姿が見られてよかった。
第3回 6月16日	先生の誕生日会をし よう	・全員が役割をもち、一つのものを作り上げようとする姿が素晴らしい。
第4回 7月17日	暑さしのぎパーティ ーをしよう	・「涼む」を感じられるように考えを出し合ったことは素晴らしい。 ・「時間」「活動の内容」を比較したり、見通しをもったりするとよりよい話し合いになる。
第5回 9月18日	とうぶ移動教室前 に、もっと仲を深め よう会をしよう	・マイムマイムなど移動教室で行うものをミニゲーム形式で取り入れる工夫がよかった。 ・くっつけるという考えの際に、提案者の意図を汲み取ることは大切。

イ 係活動

4月に係を決定してから、朝の時間や休み時間を利用して活動している。積極的、かつ楽しそうに取り組んでいるが、創意工夫が見られる活動は少ない。2学期になり、メンバーを変更したため、担任として児童の気持ちを大切に考え、活動の幅が広がったり、質が高まったりするような声掛けをしている。

ウ 集会活動

第1回の集会活動から、児童が取り組みたい役割を担い、計画から実施まで取り組んでいる。第5回までの児童の振り返りから、「一部の人たちに頼っている」「一人一人が役割をもつと良いと思う」等の意見が出た。そこで全員が必ず役割を担い、役割を果たすことで「できた」を実感させていきたい。また、一人で取り組むことが苦手な児童でも同じ役割の友達と協力し合うことで役割を果たせるようにしていく。

3 評価規準と目指す児童の姿

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 ・合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

4 研究主題に迫る手だて

(1) 「分かった！」を積み重ねるための手だて

計画委員会の充実

計画委員会と役割の内容や議題・提案理由を練る時間を確保する。また、司会進行に当たって不安なことや疑問などを共有し、解決した状態で当日を迎えられるようにする。そうすることで、学級会の司会進行の流れや役割について理解することができ、自信をもって活動ができるようにしていく。

(2) 「できた！」を積み重ねるための手だて

できたことの価値付け

「先生の話」で、1単位時間の話し合いからできたことへの価値付けを行う。スライドを活用し、「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の中で、児童のよかった発言や司会グループの頑張っていたところを取り上げ、称賛する。また、次回の学級会がさらによくするよう課題を伝える。伝えた課題を解決するために計画委員会で振り返りを行い、次回のめあてを計画委員会と考える。考えためあては、朝の学習の時間等を使い、全員の了承を得て、次回のめあてにする。このサイクルを設定することで、毎時間議題が変わっても、前回の話し合いの経験を生かして「できた」と感じる児童を増やし、達成する喜びを感じさせていく。

(3) 「一緒に頑張れた！」を積み重ねるための手だて

集会活動での一人一役の実践

実践活動に向けて、一人一人が必ず役割を担うようにする。役割を果たす経験を積み重ねることで、「できた」という実感を増やしていく。また、一人で取り組むことが苦手な児童でも同じ役割の友達と協力し合うことで、役割を果たす経験を繰り返すことで友達と協力するよさを実感させていく。そうすることで、学級のために取り組むよさや友達と協力する大切さに気づき、自信をもって最後まで活動できるようにする。

5 事前の活動

日時	○児童の活動	□指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
9/11(木) 給食時	○計画委員会が議題案から議題を選定する。		
9/12(金) 朝の会	○全員の承諾を得て議題を決定する。	□全員が提案理由を理解して、実践する目的を共有できるようにする。 □これまでの経験から、遊びは二つにすると決める。	【態度】 ◎学級をよりよくするために、見通しをもちながら、自分の考えをもち、取り組もうとしている。(観察)
9/17(火) 朝の会	○児童は、自分の考えをワークシートに記入する。	□必ず自分の考えをワークシートに記入するよう声掛けをする。	【思考・判断・表現】 ◎提案理由に沿った意見を考え、学級会カードに書いている。(学級会カード)
10/1(水) 休み時間	○計画委員会が学級会カードを確認し、話し合いの見通しをもつ。	□台本や板書計画を見せて、進め方など共通理解できるように助言する。	【知識・技能】 ◎司会グループの役割、学級会の進行の仕方を理解して

	○学級会カードに目を通し、当日の進め方の見通しをもつ。		いる。(観察)
10/7(火) 休み時間	○前回の計画委員会の中で、不安なことや疑問など、話し合いを通して解消する。	□役割について映像資料を活用することや、計画委員会内で解決しづらい内容は、助言をする。	【知識・技能】 ◎司会グループの役割、学級会の進行の仕方を理解している。(観察)
10/10(金) 休み時間	○進め方について最終確認をする。	□話し合いの方向性を確認し、計画委員会の不安を解消する。	

6 本時の活動

(1) ねらい

互いの考えを尊重しながら多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、集会活動の内容や役割を決めることができる。

(2) 指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉	【議題】 「とうぶ移動教室、思い出を振り返ろう会をしよう」 【提案理由】 クラスのみんなととうぶ移動教室の思い出を共有し、クラスの仲をさらに深めたいから。 【めあて】 理由を含めて、自分の考えを伝えよう。 【決まっていること】 ① 日時：10月20日(月) 3時間目 ② 場所：教室 ③ 遊びは、二つ	
2 司会グループの自己紹介		
3 議題と提案理由の確認		
4 めあての確認		
5 決まっていることの確認		
6 先生の話		
7 話し合い 話し合うこと ①「何をするか」 20分	○提案理由が話の中心となるように意識付けを行う。 ○計画委員会が進行に困った時には、話し合いの方向性を助言し、全員が計画委員会の仕事について理解させ、「一緒に頑張れた！」という経験をできるようにする。 ○みんなが納得したうえで、合意形成する。 ○全員が役割を担えるように声を掛ける。	【知識・技能】 ◎合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。(観察)
②「役割分担」 10分	○今度の活動に向けての見通しを確認する。	【思考・判断・表現】 ◎尊重しながら多様な意見のよさを生かして、話し合って決めることができる。
8 決まったことの確認		
9 振り返り		

10 先生の話	○司会グループを称賛する。 ○めあてを意識していた姿、多様な意見のよさを生かし合意形成する姿を称賛する。	(観察・学級会カード)
11 おわりの言葉	○本時の中で、どのようなことが課題だったか問い掛ける。	

7 事後の活動

日時	○児童の活動	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
10/15(水)～ 10/17(金) 休み時間や 給食時間を 活用	○集会の準備 (「役割分担」を決めることができなければ、当日までに朝の会や帰りの会を利用して決める。)	・活動がスムーズにすすめられるよう、マジック/画用紙/模造紙などの必要なものを準備しておく。 ・よい活動の姿が見られた児童は全体の前で称賛する。	【態度】 ◎学級をよりよくするため、役割を意識して見通しをもち、自己のよさを発揮して活動に取り組むことができる。 (観察)
10/20(月) 3時間目	○第6回集会 「とうぶ移動教室、思い出を振り返ろう会」をしよう	・全員が楽しく安全に活動できるように助言する。 ・集会後に準備から集会までの中でよい姿を称賛し、価値付ける。	【思考・判断・表現】 ◎合意形成したことに對して、友達と協力し合って信頼し実践している。 (観察)
10/20(月) 帰りの会	○一連の活動を振り返る。	・自分の活動を振り返り、自分の役割を果たすことや、友達のよかったところについても認められるように助言する。	【態度】 ◎自他のよさに気付いたり、経験したことを次の活動に生かそうとしたりしている。 (観察・振り返りカード)

8 研究協議・指導講評

【成果】

- 計画委員会の児童が、自信をもって進行する姿が見られた。
- 友達の意見を生かそうする発言が見られた。
- 多くの児童が、発言できる工夫を考えていた。

【課題】

- △意見を伝えることが苦手な児童も発表させる必要があるのか。
- △司会が円滑に進行していたが、内容を理解できていない児童がいたのではないかな。
- △役割分担を時間内に決めてもよかったのではないかな。

【指導・講評】

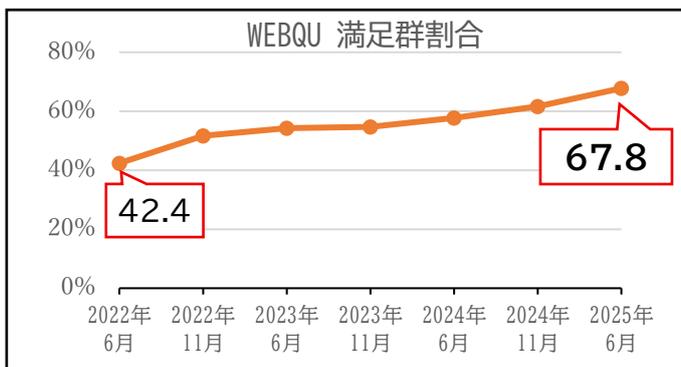
講師 帝京大学教職センター兼教育学部初等教育学科 教授 佐野 匡先生

- ・「何をする」ではなく、「どうする」の話し合いから入ると良い。前者は多数決になりがちだが、後者は相反しなければいくつでも出る。
- ・「さらに仲が深まったってどんな姿？」と振り返らせる。次の課題とし、議題、提案理由を成長させていく。
- ・理由を視覚化させるポイントとして、「言葉は短く」「矢印や記号を使う」「絵や表」「配置の工夫」の経験を積ませていく。

Ⅲ 研究のまとめ

1 WEBQU の結果

児童が充実した学校生活を送るためには、学級に対して満足している状態が必要である。そこで、年に2回実施するWEBQUの満足群割合を調査すると、右のグラフのようになった。

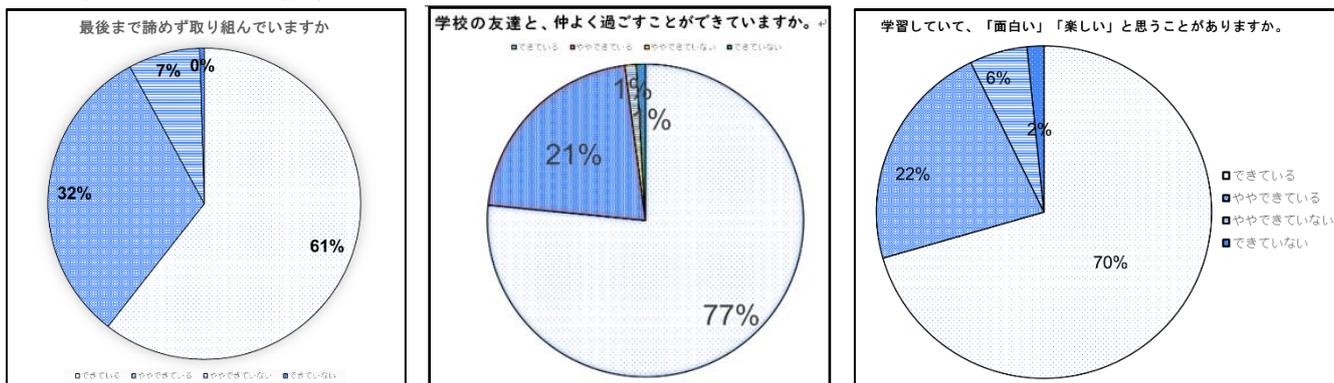


算数科を中心に研究していた令和4年6月と、算数科、体育科、特別活動の3教科等を中心に、全教科、及び、サポートルームや日本語の指導で、「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を視

点に研究した令和7年6月を比較する。令和4年6月には、満足群の割合が42.4%と半数以下であったことにに対し、令和7年6月には67.8%と、25.4%の上昇が見られる。

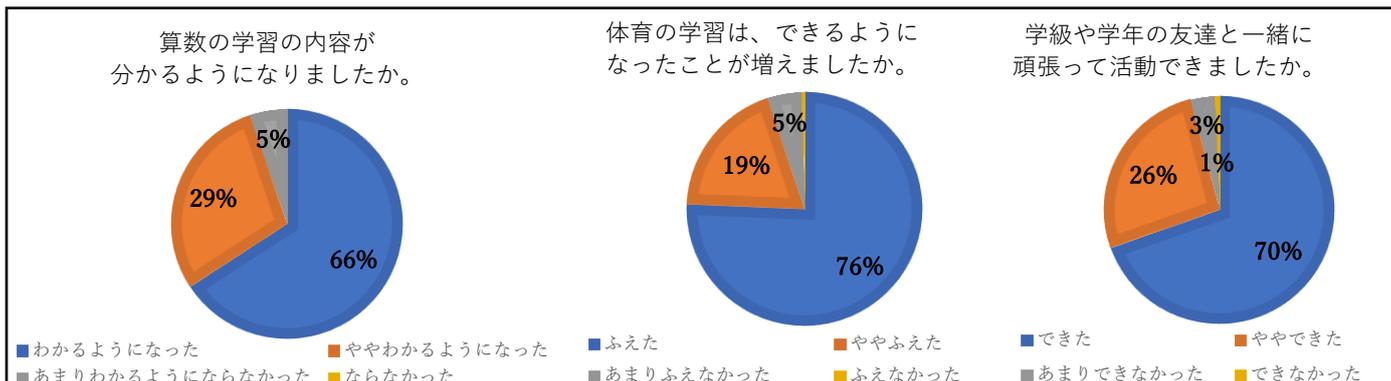
どの教科等においても、苦手意識をもたずに児童が取り組めることが最良であるが、実際、そのようにはいかないことが多いであろう。しかし、本校の研究は、例えば、「算数は苦手だけど、前より体育の学習ができたから、明日も行こう」「体育のマット運動は不安だけど、学級会で決めた係の発表をみんなで一緒に頑張るから、明日も行こう」のように、苦手意識をもっていても、日々の「分かった！できた！一緒に頑張れた！」の積み重ねを大切に、「明日も行こう」と思える学校にすることである。その点において、満足群割合が増加したことは、「明日も行こう」と思えることにつながったと考えられる。

2 校内アンケート結果



令和6年度6月から令和7年度6月に実施した児童アンケートの結果を集計したところ、「最後まであきらめずに取り組んでいますか」「学習していて『面白い』『楽しい』と思うことがありますか」「学校の友達と仲よく過ごすことができますか」の3項目において、いずれも肯定的な回答の割合が全校児童の90%を超え、経年比較をしても僅かに上昇していることが分かった。

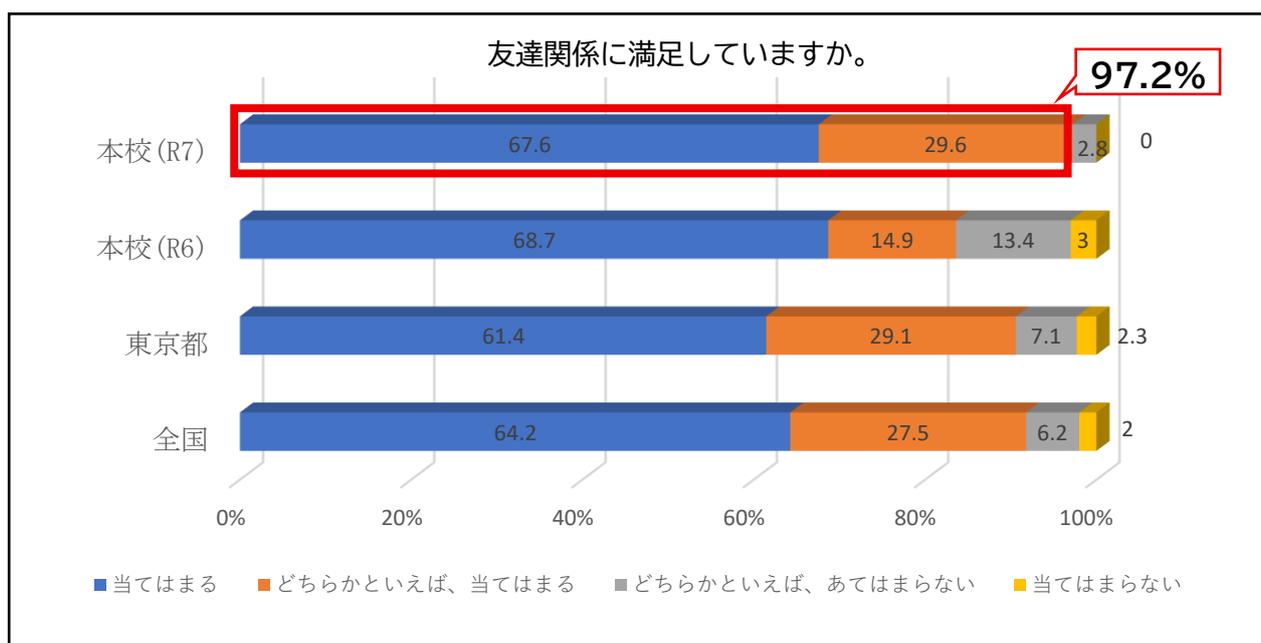
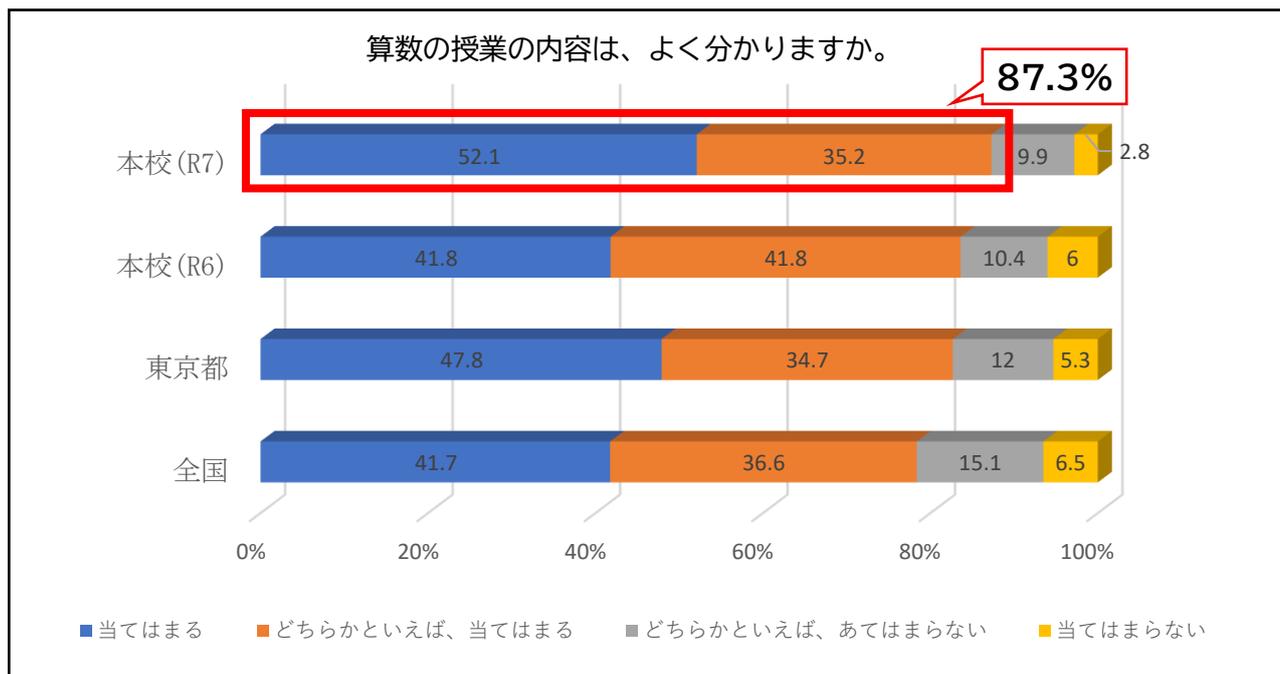
また、本校で授業研究の中心とした算数科、体育科、特別活動に関するアンケートを実施した。その結果は、以下のようになり、どの教科等でも肯定的な回答の割合が児童の90%を超えている。



このことから、児童が学習や学校生活に対して主体的かつ前向きに取り組む姿勢が着実に育まれていることが示唆される。また、全体として肯定的回答が高い水準で維持されていることから、学級・学校全体において、安心して学び、互いに認め合う雰囲気が継続的に形成されていると考えられる。それは、3教科等を中心にしながら、全教科で「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を積み重ねた結果だと考えられる。

3 全国学力・学習状況調査の結果

個々の教科について、本校の児童がどのように捉えているかを、令和6年度、令和7年度の全国学力・学習状況調査のアンケート結果を比較して考察する。



「算数の授業の内容は、よく分かりますか。」という項目について、87.3%の児童が肯定的な回答を示している。また、令和6年度に比べて、3.7%上昇しているとともに、全国よりも9%高い数値となっている。特に、「分かった！」が積み重なっている結果だと考えられる。

また、「友達関係に満足していますか。」の項目について、97.2%の児童が肯定的な回答を示している。令和6年度に比べ、13.6%上昇しているとともに、東京都や全国の結果より5%以上高い数値となっている。特に、「一緒に頑張れた！」が積み重なっている結果だと考えられる。

4 児童へのインタビュー調査

校内アンケート、及び、全国学力学習状況調査において、肯定的な回答の児童の割合が多く、「分かった！できた！一緒に頑張れた！」が積み重なっていることが示唆された。そこで、研究の成果をより深く分析するために、児童にインタビュー調査を実施した。

視点	インタビュー調査の児童の反応
分 か っ た ！	<ul style="list-style-type: none"> ・算数で解けないと思う問題でも、諦めずに取り組むようになった。 ・割り算と掛け算がつながっていることに気付いて、理解が深まった。 ・あや跳びのポイントが分かって、連続で跳べるようになった。 ・社会科の学習では、大田区のことをよくわかった。 ・算数や漢字などの苦手なものも繰り返し復習している。 ・分数の解き方がよく分かって、最後まで頑張ることができた。 ・理科で学習したてこの原理は、洗濯でバランスを取るために役立つことだと分かった。 ・江戸幕府など名前は知っていたけれど、詳しいこともよく分かるようになった。
で き た ！	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の言葉遊びで言葉をたくさん見付け、ノートにまとめることができた。 ・体育の短なわ跳びでいろいろな種類の跳び方ができるようになった。 ・九九が言えるようになった。 ・計算練習を繰り返し行うことで、計算ができるようになった。 ・パスパスドンでボールを強く投げることができ、キャッチテニスで相手のボールが床に落ちる前に捕ることができた。 ・もともと何かを作るのが好きで、特に粘土で皿を作ることができた。 ・社会では、新しい知識が増えた。知ったことを活用できるようになった。 ・作文では、最後の行まで書くことを意識して取り組み、文章がたくさん書けるようになった。
一 緒 に 頑 張 れ た ！	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から友達に声を掛けて一緒に遊べるようになった。 ・運動会や遠足をみんなと楽しむことができた。係でも友達と一緒にできた。 ・リクエストをすると、クイズ係が面白いクイズをしてくれる。 ・学級会でみんなと話し合いをして決めるのが楽しい。 ・総合的な学習の時間で、みんなで協力して事故防止に関するポスターを作った。 ・算数では、友達が分からなくて困っているときに、教えてあげることができた。 ・イラスト系の活動では、メンバーで協力して活動できている。 ・体育でマットや跳び箱ができない友達にお手伝いをしたら、できるようになって嬉しい。

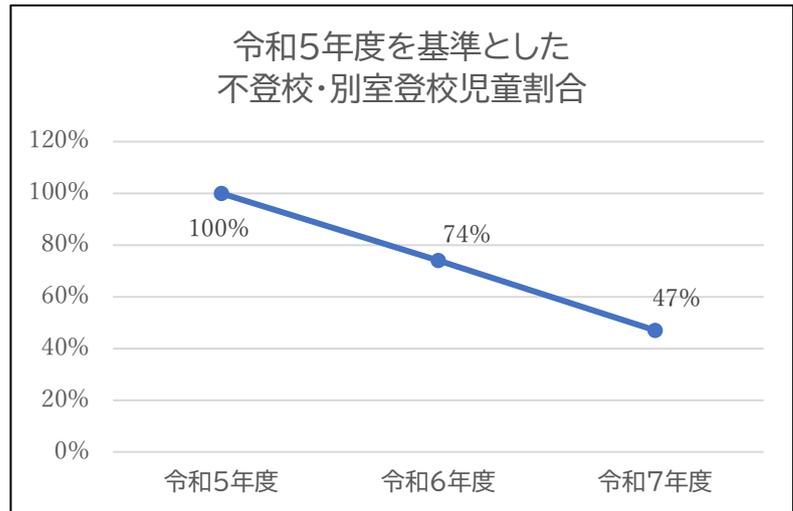
児童のインタビュー調査から、様々な場面で自分の成長を実感していることが分かり、「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を積み重ねたことが有効であったことが示唆される。

5 不登校・別室登校児童割合

本校での様々な取組が、不登校未然防止という教育課題に対して有効であったのかを不登校、及び、別室登校の児童数の割合をもとに考察する。令和5年度の不登校、及び、別室登校の児童数を100%として、令和6年度、令和7年度の割合を算出している。グラフは、右図のようになる。

令和5年度に対して、令和6年度末には74%、令和7年度9月には47%となっている。つまり、令和7年度には、

不登校、及び、別室登校児童の割合が半数以下になっており、本校での取組が、不登校未然防止という教育課題に対して有効であったと言える。



6 まとめ

ここまでの各種調査、及び、2年間で12本の授業研究をもとに、成果と課題をまとめると以下のようになる。

【成果】

- ・WEBQUの満足群割合が大幅に増加していること、また、令和5年度を基準とした不登校・別室登校児童割合が大幅に減少していることから、研究主題である「明日も行こう」と思える学校の実現につながった。
- ・「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を視点に、3教科等を中心にして、全教科、サポートルーム等で指導を継続したことで、児童は、学習、運動、友達との関わりに対して、肯定的に捉えることができるようになった。
- ・様々な場面で協働的に取り組むことが増え、話し合いを通して理解を深めたり、児童同士のお手伝いで運動技能を高めたり、互いに認め合って活動したりと、目指す児童像の実現につながった。
- ・「分かった！できた！一緒に頑張れた！」を視点に、分科会ごとに手だてを講じて、日々授業研究に取り組んだことで、教員の指導力向上につながった。

【課題】

- ・研究を通して、学習に主体的に取り組む児童が増えてきた。一方で、活動等に対して受動的な児童に対しての手だてや支援が必要である。
- ・話し合いを始めとして、協働的に学習する場面を設定した。しかし、相手のノートに書かれた文章を理解したり、発言の内容を理解したりすること、適切な言葉で伝えたり、説明したりすることが難しい児童が多い。各教科において、協働的に学習させるために、相手や文章の意図を読み取り、適切な言葉で説明するなど、読む、書く、話す、聞くなどの力を育成することが必要である。

